

2026年2月期 第1四半期

決算説明会

2025年7月31日



イオンフィナンシャルサービス

証券コード 8570(東証プライム・その他金融)

# 2025年2月期決算 業績修正について

- ベトナムPTF社について、持分取得前における貸倒引当金の過少計上を確認
- PTFの資産を再評価し、過年度に遡り訂正 のれん減損38億円を計上

	修正連結			4/10 開示差			
	修正連結	YoY		国内	YoY	国際	YoY
営業収益	5,332 億円	110 %	—	3,131 億円	107 %	2,225 億円	115 %
営業利益	614 億円	123 %	—	222 億円	191 %	387 億円	101 %
経常利益	625 億円	122 %	—	—	—	—	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	156 億円	75 %	▲38 億円	—	—	—	—

1 2026年2月期 第1四半期決算概要

2 重点実施事項

3 2026年2月期 業績予想及び配当予想

Appendix

# 2026年2月期 第1四半期 連結業績ハイライト

	連結		国内		国際		25年度通期 連結見通し	進捗率
	金額	YoY	金額	YoY	金額	YoY		
営業収益	1,365 億円	107 %	811 億円	108 %	563 億円	106 %	5,700 億円	24 %
営業利益	129 億円	85 %	34 億円	55 %	94 億円	107 %	570 億円	23 %
経常利益	138 億円	87 %	—	—	—	—	570 億円	24 %
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	43 億円	72 %	—	—	—	—	210 億円	21 %

# 第1四半期 連結決算サマリ

国内外で顧客基盤を拡大し、連結有効ID数は5,645万人(期首差+73万人)

取扱高・営業債権残高の拡大に寄与し増収 一方で、金融費用の増加が先行

## 資産収益性の向上

・債権残高※の順調な拡大が収益貢献

国内 : 7,582億円(YoY101%)

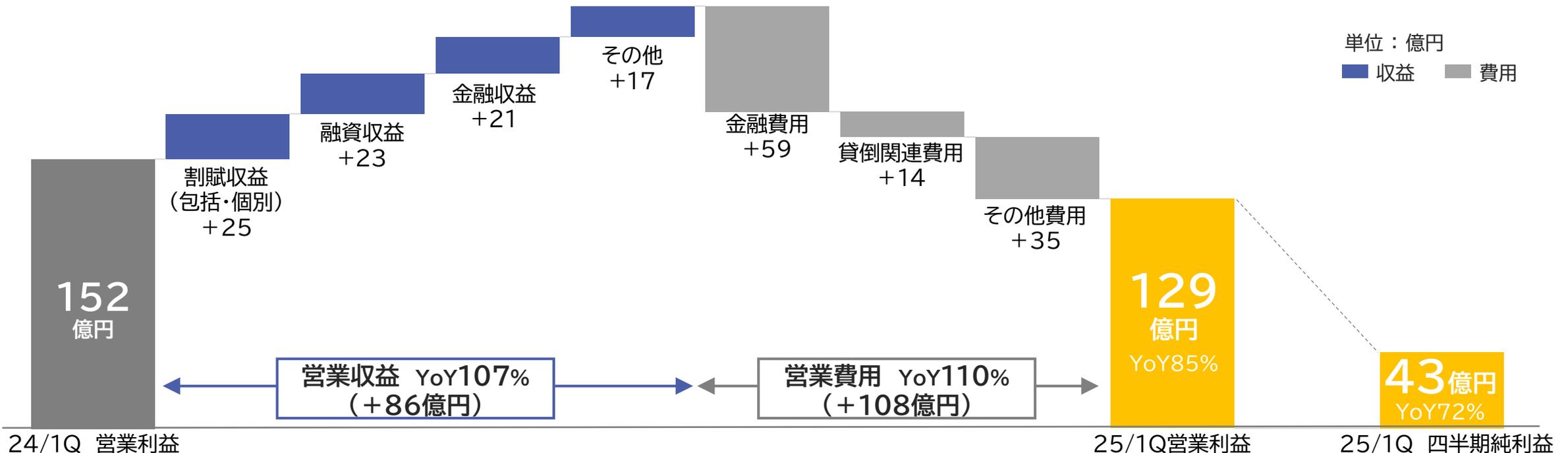
国際 : 1兆290億円(YoY107%)

## 生産性の向上

- ・貸倒関連費用の増加を抑制
- ・金融費用の増加が先行も、施策効率の重視により販促費は▲20億円

## 事業ポートフォリオの見直し

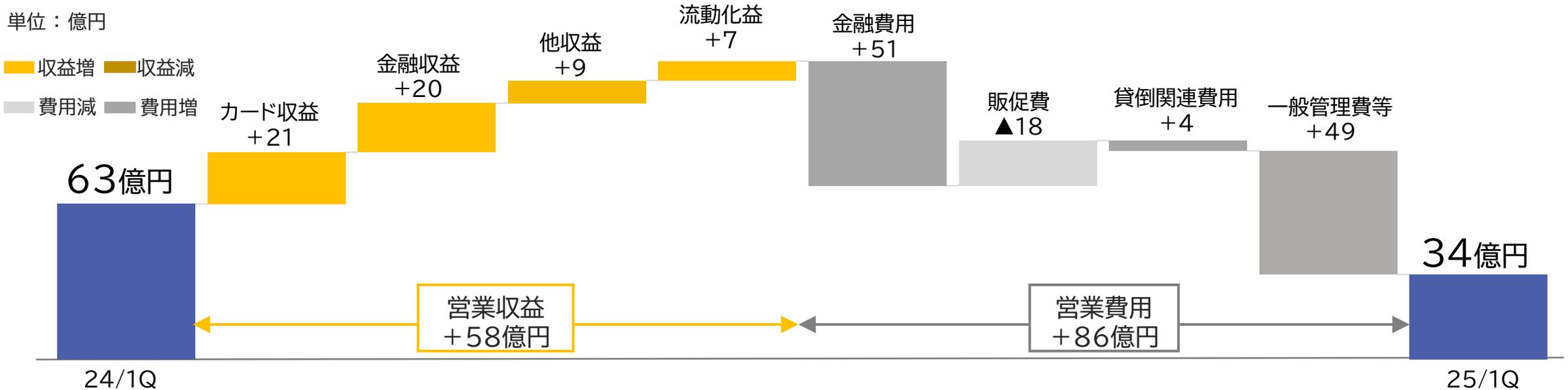
- ・7/1にイオン・アリアンツ生命(株)の明治安田への株式譲渡完了
- ・譲渡に先立ち個人向け保険に係るシステム減損(▲27億円)を実施



# 国内事業

# [国内] 第1四半期 営業利益 前期差内訳

- 金融費用は預金利息の増加に加え、国債等のリバランスに伴う損失を13億円計上



主な内容

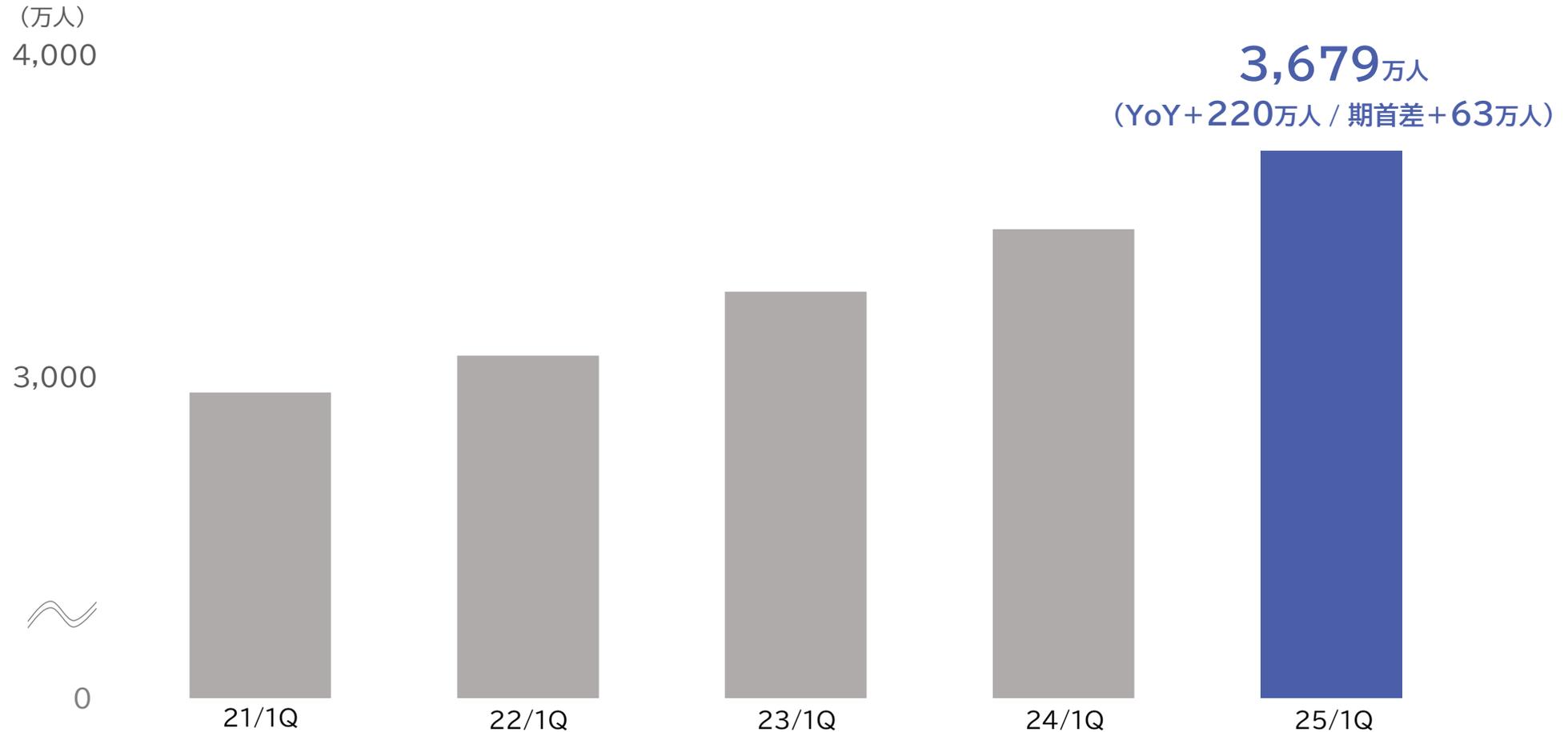
【営業収益】	
・カード収益	+21億円 (包括信用購入あっせん収益+16億円、融資収益+5億円)
・金融収益	+20億円 (利息・配当+19億円、貸出金利息+4億円)
・他収益	+9億円 (保険収益+6億円)

【営業費用】	
・金融費用	+51億円 (預金利息+33億円、国債等のリバランス+13億円)
・販促費	▲18億円 (販促施策の効率化)
・一般管理費等	+49億円 (システム運営費+16億円、人件費+7億円、保険費用+7億円)

# [国内] 顧客基盤 <有効ID>

生産性  
(収益拡大)

- コード決済「AEON Pay」のチャージ払い会員を中心に有効IDが拡大（期首差+63万人）

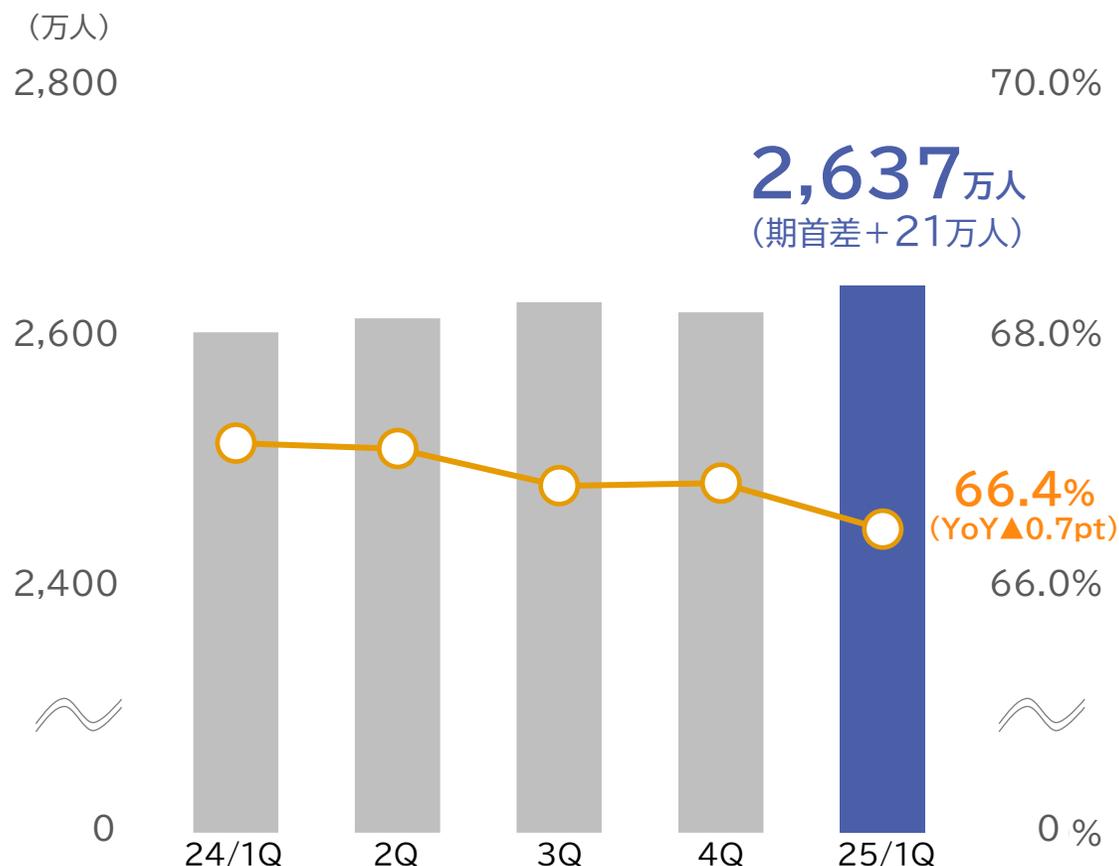


※有効ID：イオンカードやAEON Pay、イオン銀行口座等の当社提供サービス利用の顧客数  
※会員が重複する場合は、名寄せして集計

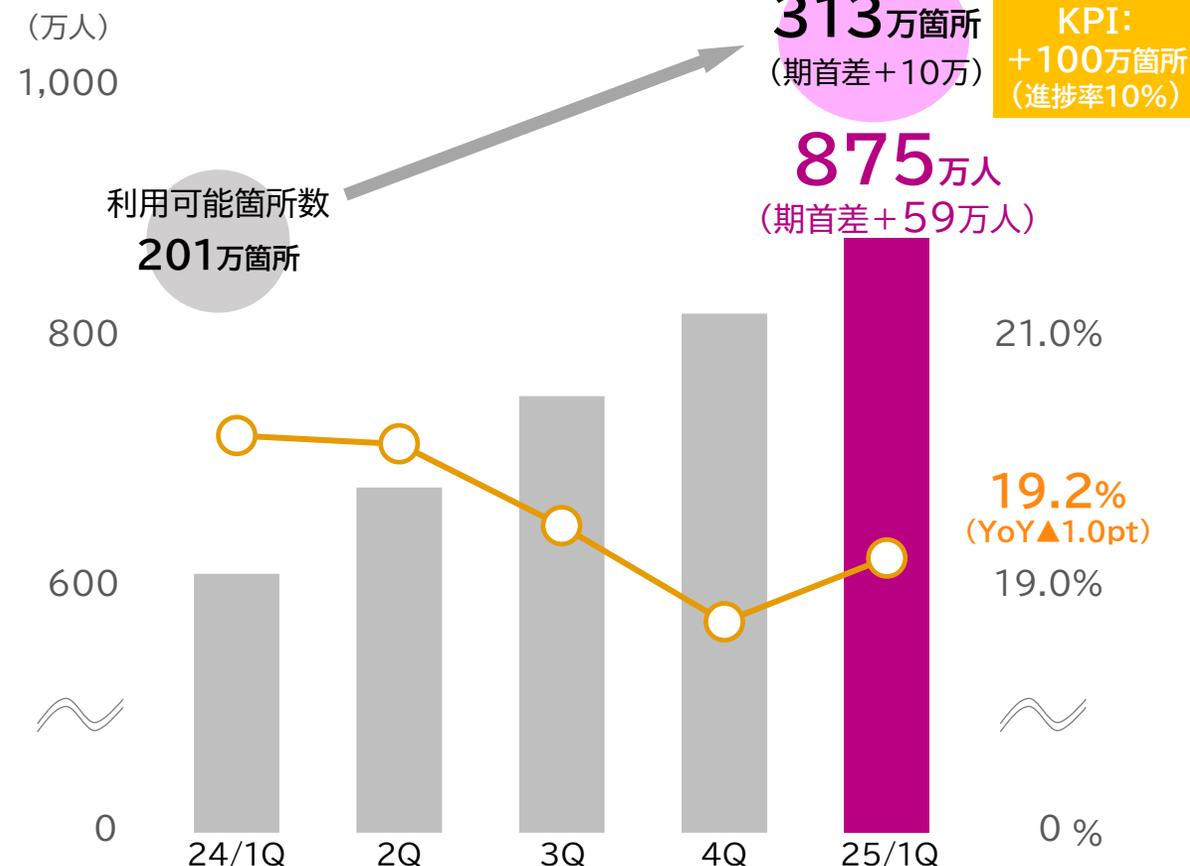
# [国内] 顧客基盤 <イオンカード、AEON Pay>

- カード新規会員獲得は38万人(YoY92%)、有効会員数は期首より21万人増加
- AEON Payはコンビニ等の利用可能箇所が拡大、会員数は875万人

## カード有効会員数・稼働率



## AEON Pay ID登録会員数・稼働率、利用可能箇所数

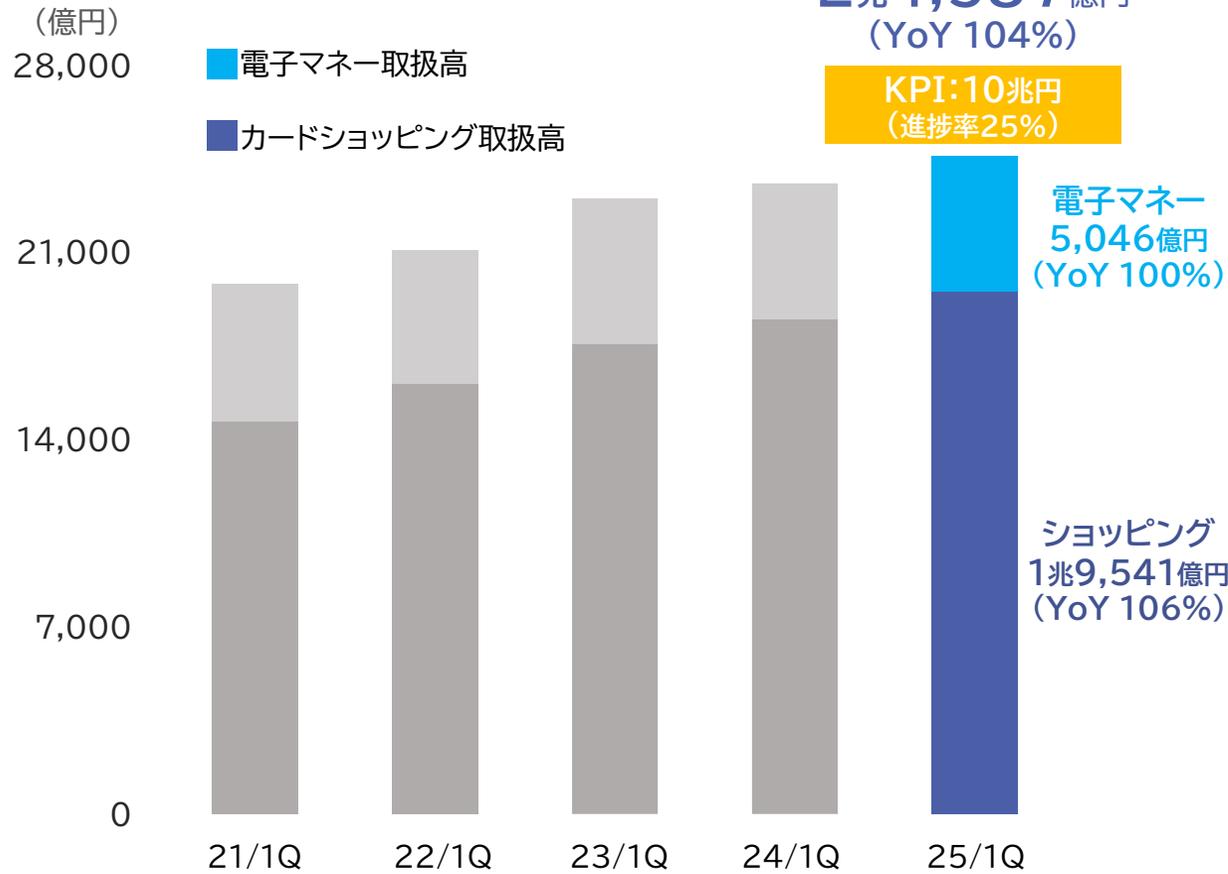


# [国内] 自社決済取扱高

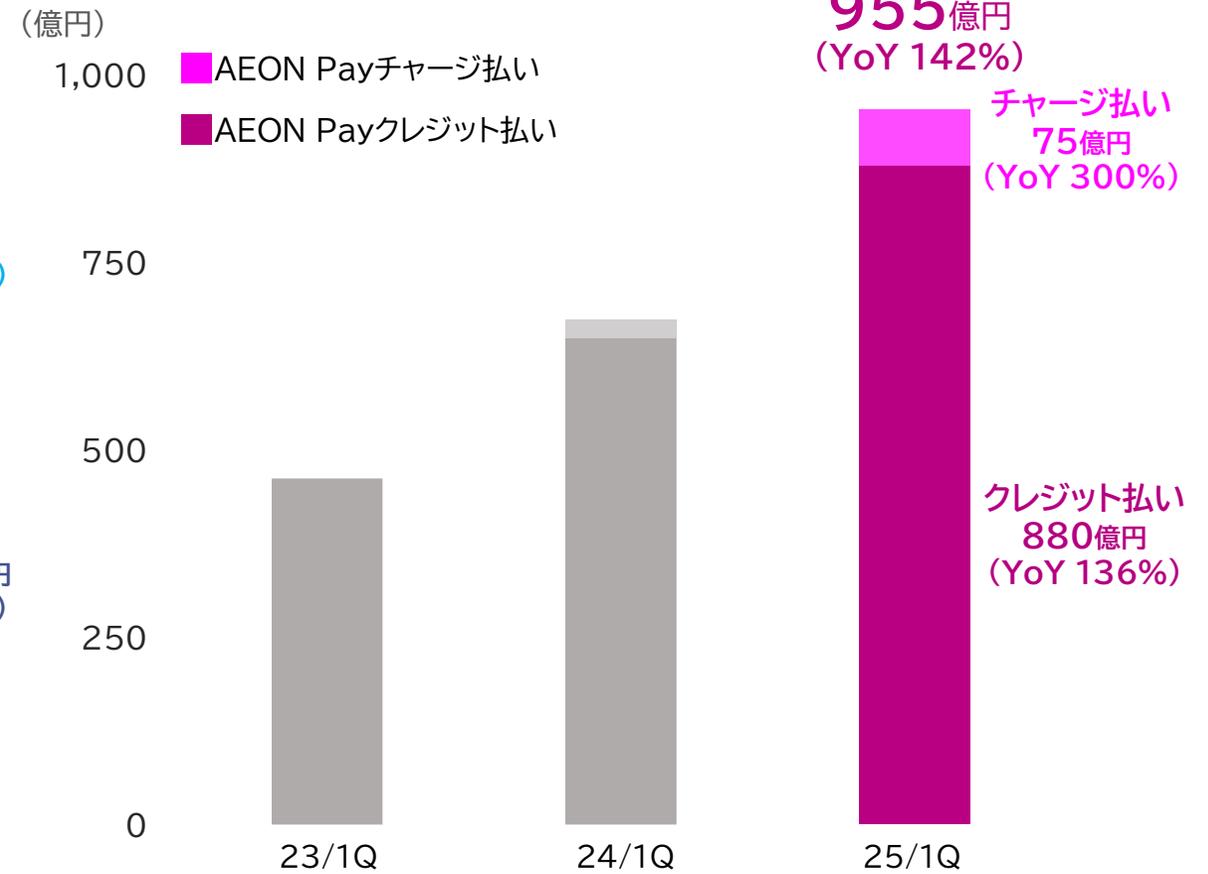
生産性  
(収益拡大)

- 昨年度開始したクレジットカード特典の浸透やAEON Pay利用促進が貢献

## 自社決済取扱高



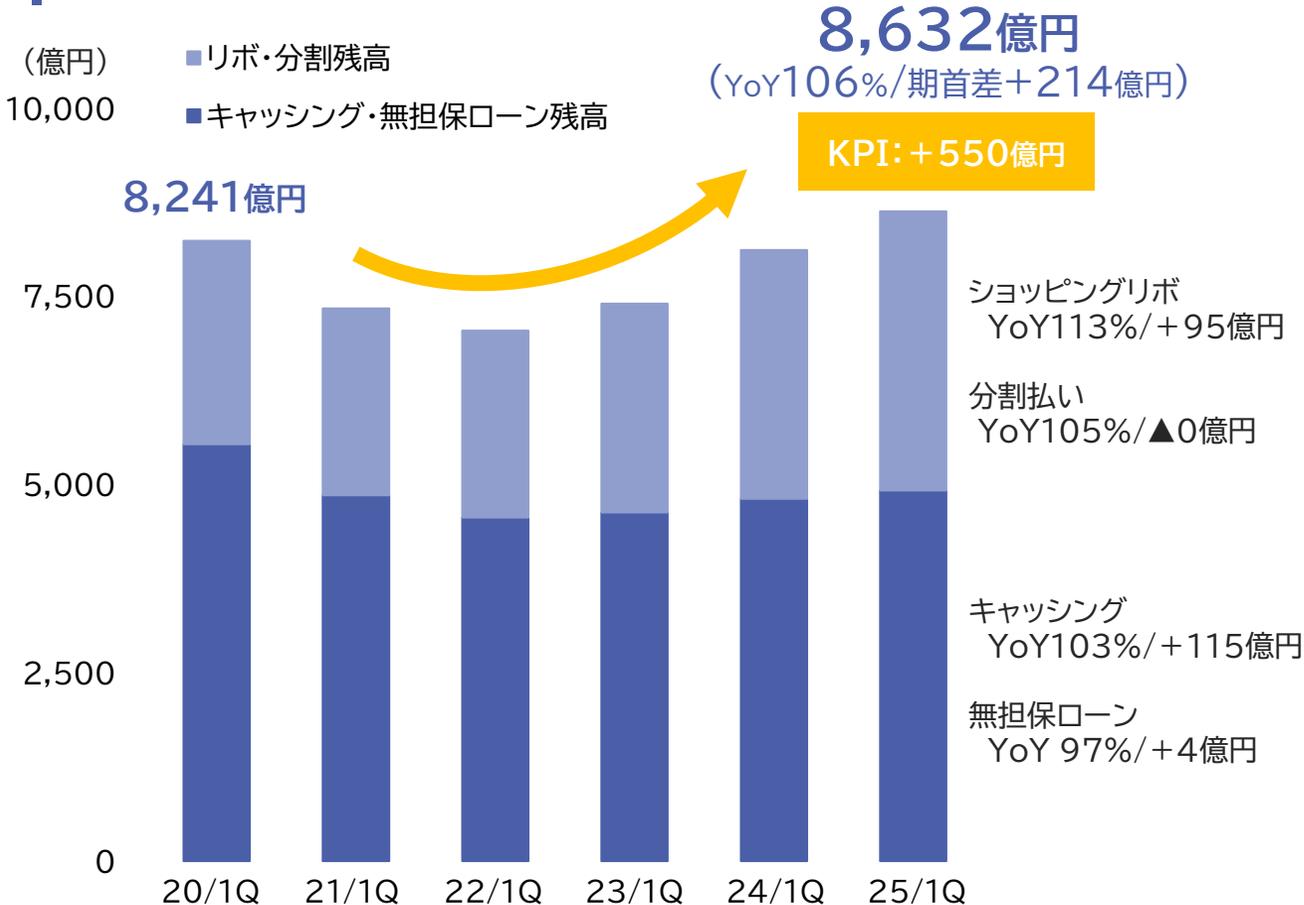
## うち、AEON Pay取扱高



# [国内] 高利回り債権残高の状況

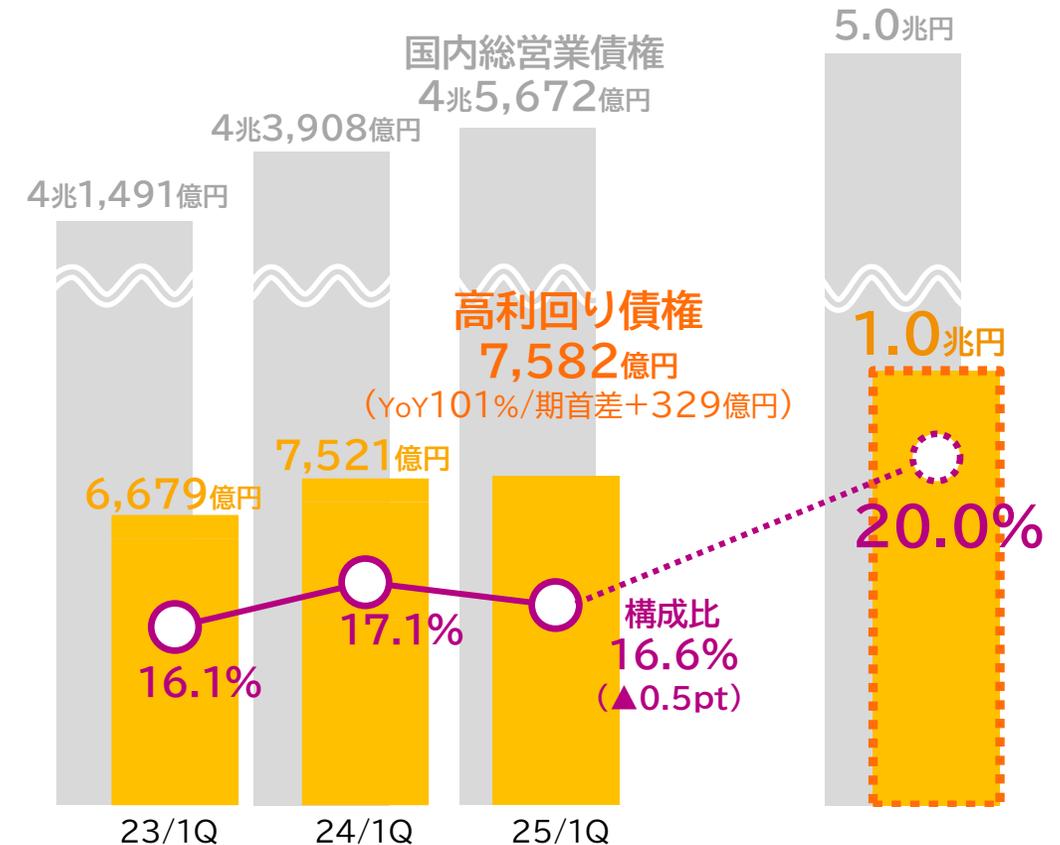
- 収益基盤構築に向けた高利回り債権の積み上げは、期末残高KPI+550億円に向け順調に進捗

## 債権流動化前残高推移



## 高利回り債権比率と残高推移(債権流動化実施後)

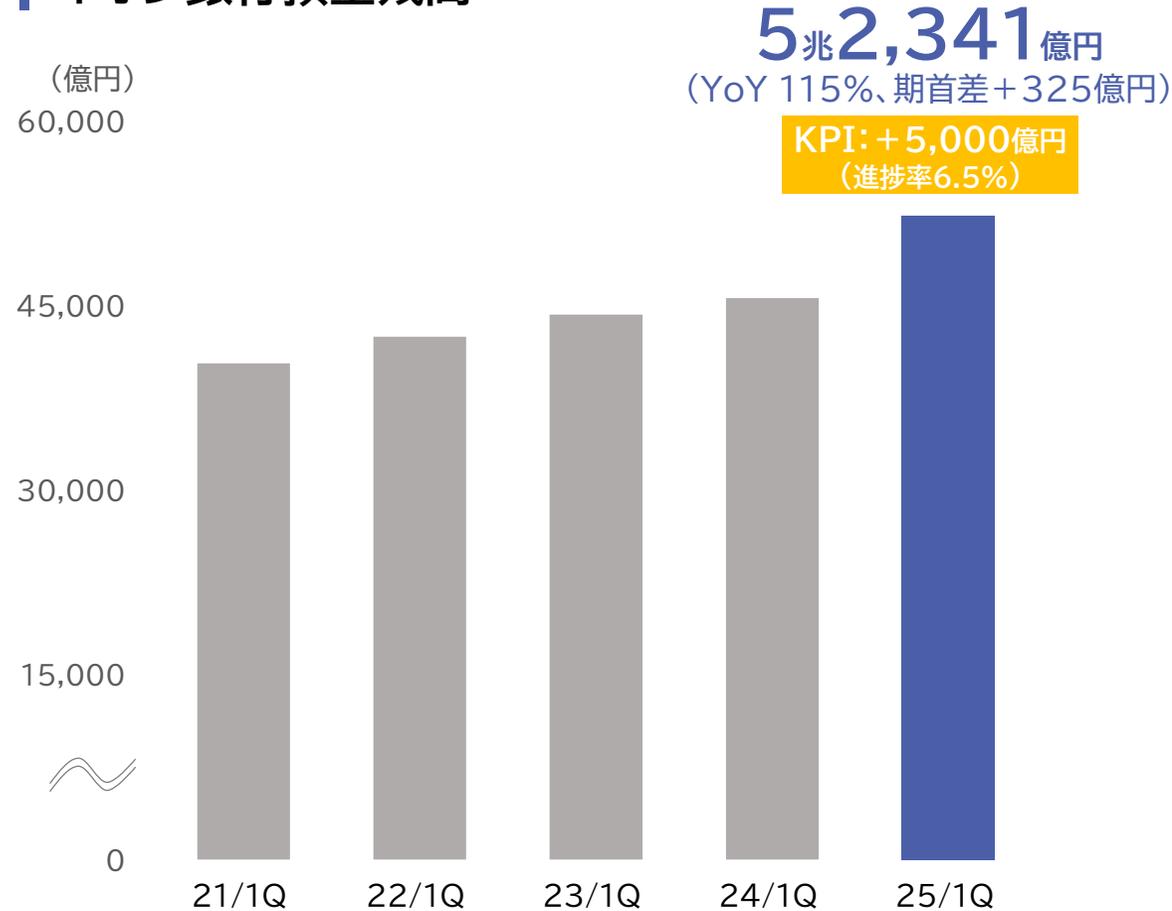
※高利回り債権:リボ・分割、キャッシング、無担保ローン



# [国内] 銀行預金

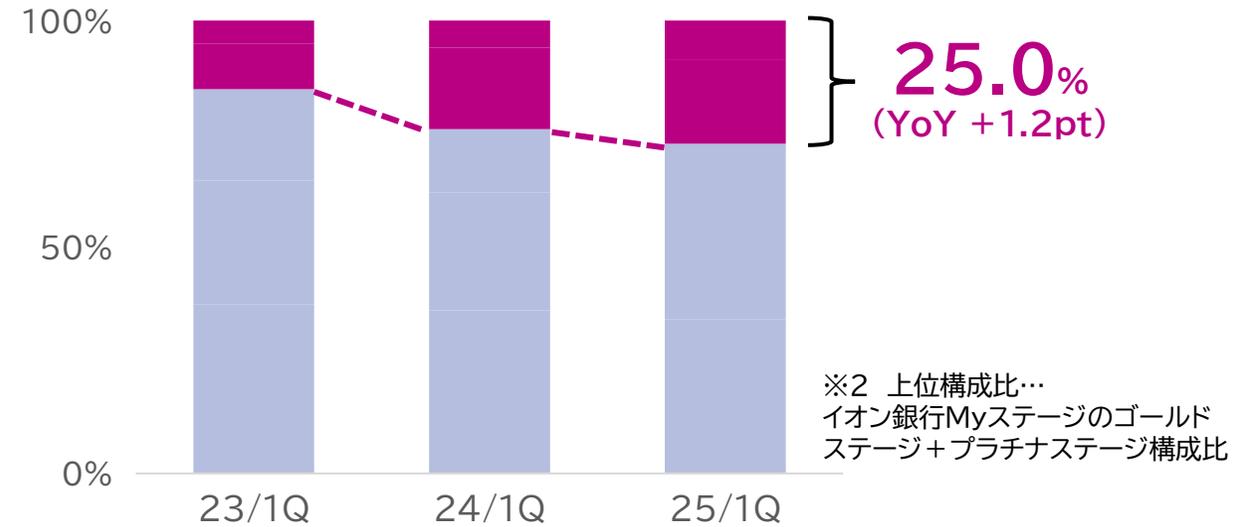
- 預金残高は、単価の高い退職金定期預金が好調に推移し、YoY115%
- 日常的に利用いただく生活口座化を進め、粘着性の高い普通預金の獲得を進める

## イオン銀行預金残高



## 日常的に利用いただく生活口座化を推進

口座に占める「イオン銀行Myステージ※1」上位※2構成比



### ※1 イオン銀行Myステージ

お取引内容に応じた優遇制度

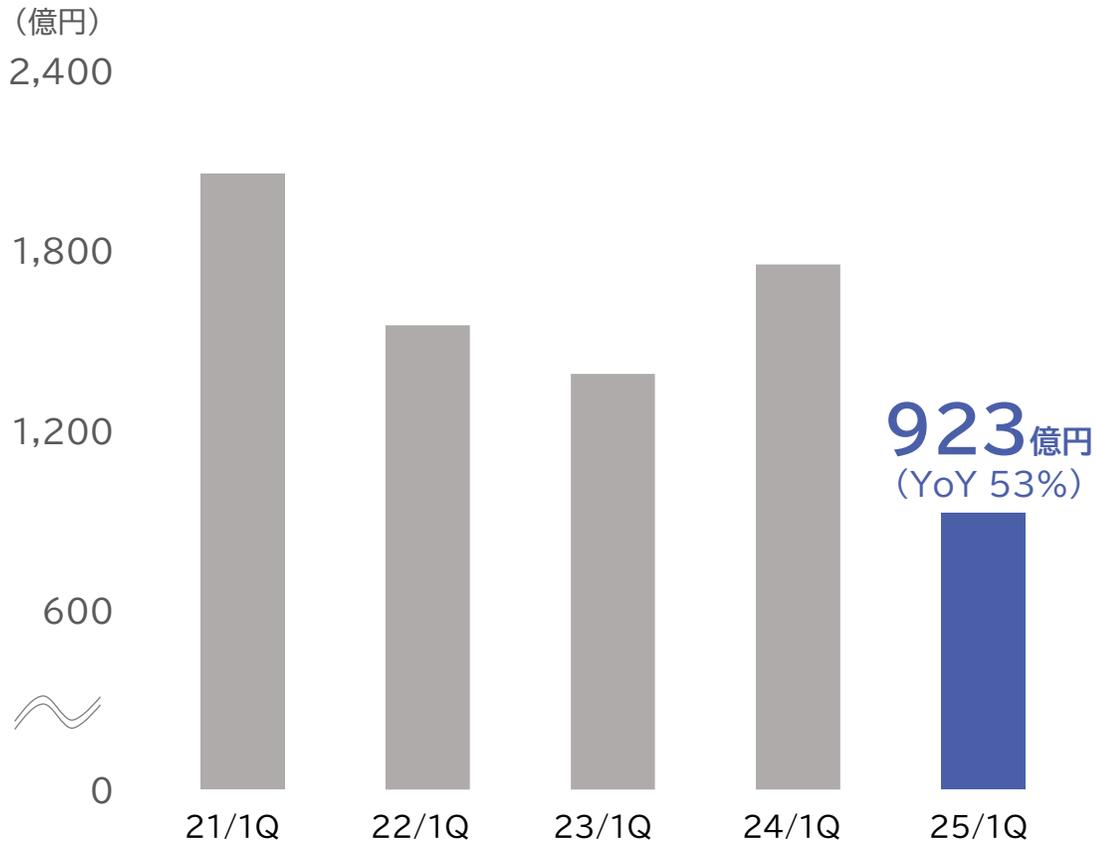
- ①クレジット、WAONの利用実績
  - ②住宅ローン/無担保ローン
  - ③給与・年金受取口座
- etc...



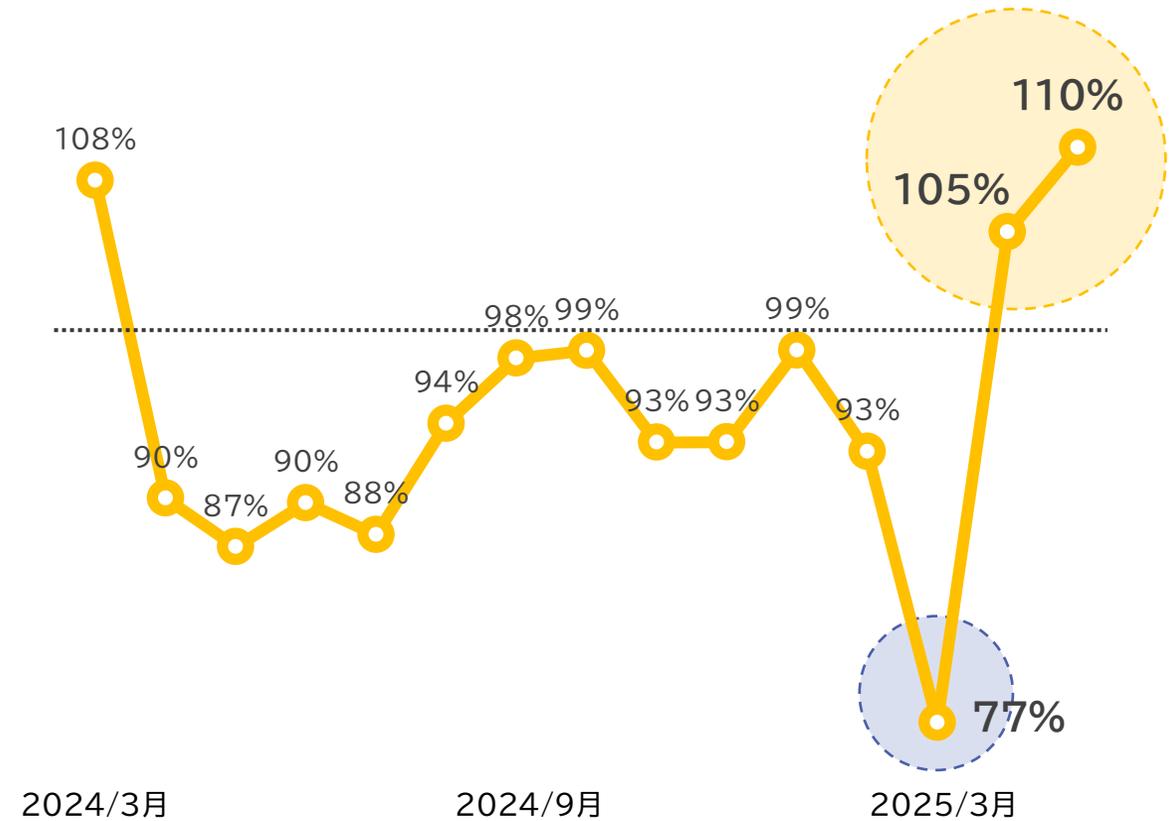
# [国内] 住宅ローン

- 金利改定(3月)により競合との金利差が拡大し、住宅ローン取扱高はYoY53%
- 4月より店頭での35年超ローンの取扱いを開始 事前申込件数は4月以降前年を上回り推移

## 住宅系ローン取扱高



## 居住用住宅ローン事前申込件数(前年比)

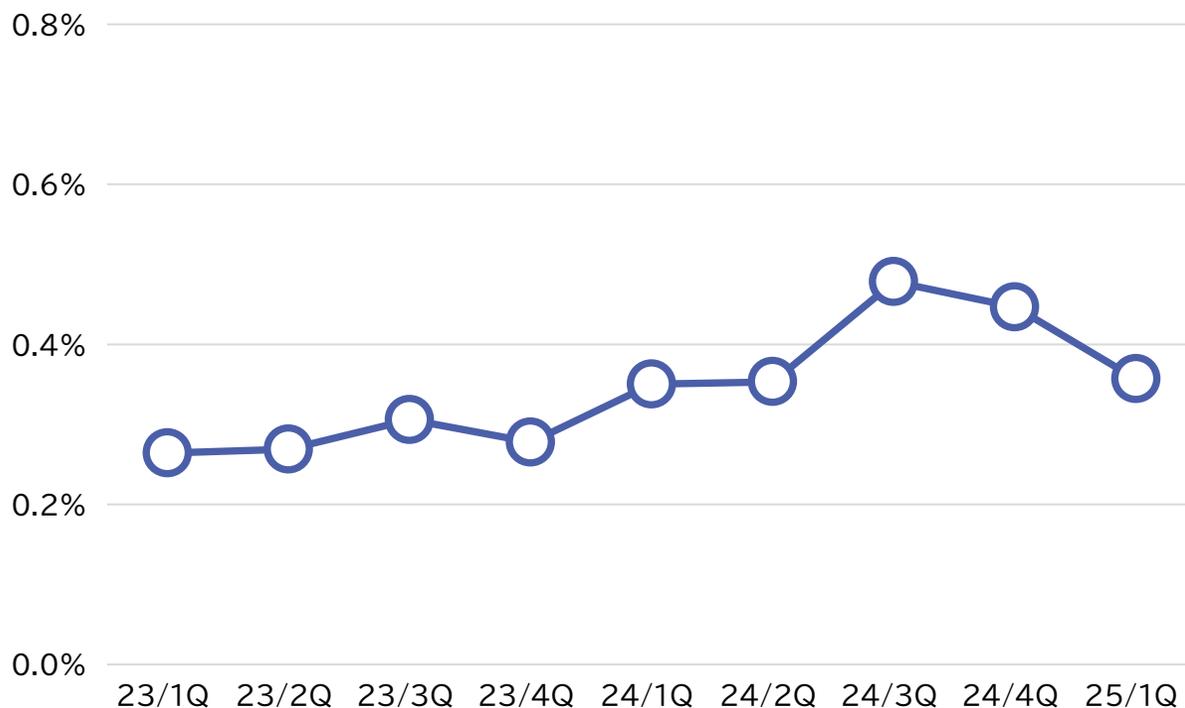


# [国内] 貸倒関連費用と生産性向上による費用コントロール

- 貸倒関連費用率は不正利用による補償額の減少により低下
- 人件費率は流動化益等により増減も、生産性向上により低下トレンドで推移

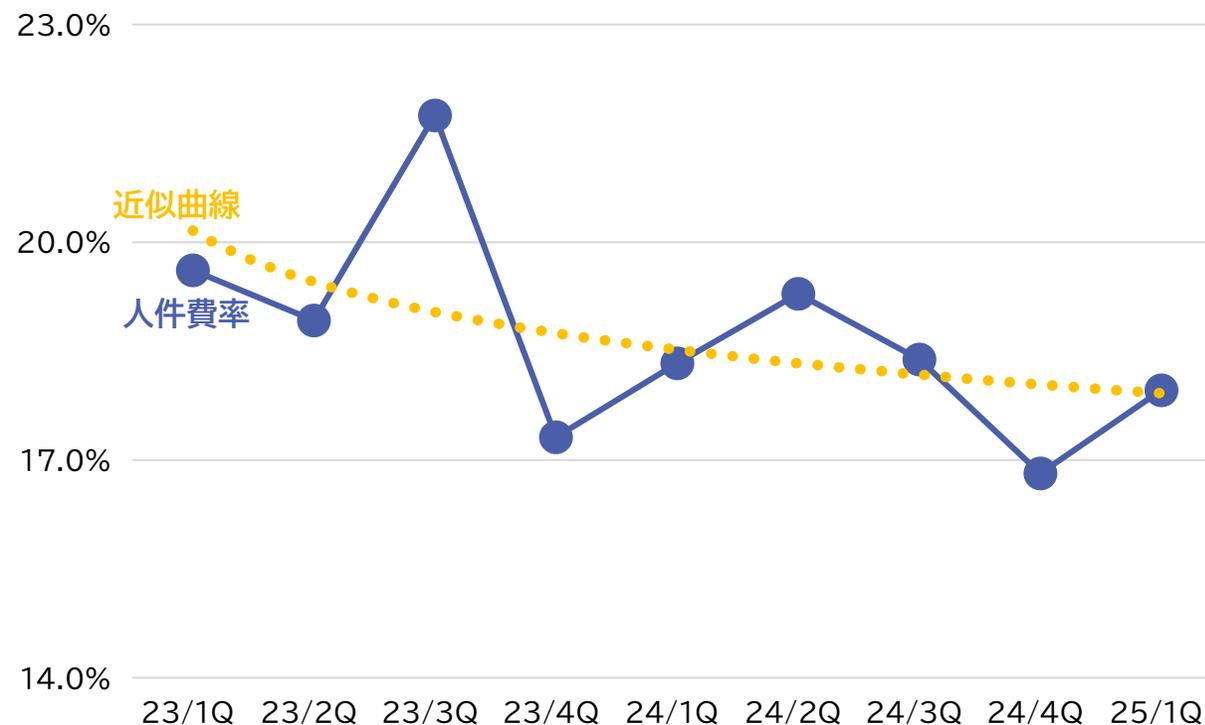
## 貸倒関連費用率の四半期推移

※営業貸付金と割賦売掛金の合計残高に対する貸倒関連費用率(今回より基準変更)



## 人件費率の四半期推移

※営業収益/人件費率



# 国際事業

# [国際] セグメント別 業績ハイライト

- 国際事業で増収増益を達成
- マレー圏は前年同期での貸倒関連費用の戻入影響により貸倒関連費用が増加も、業容順調

	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
	金額	YoY	金額	YoY	金額	YoY	金額	YoY
営業収益	563 億円	106 %	84 億円	99 %	243 億円	105 %	235 億円	110 %
営業利益	94 億円	107 %	24 億円	127 %	40 億円	156 %	28 億円	68 %
<参考> 貸倒関連費用	181 億円	106 %	19 億円	85 %	78 億円	89 %	82 億円	139 %

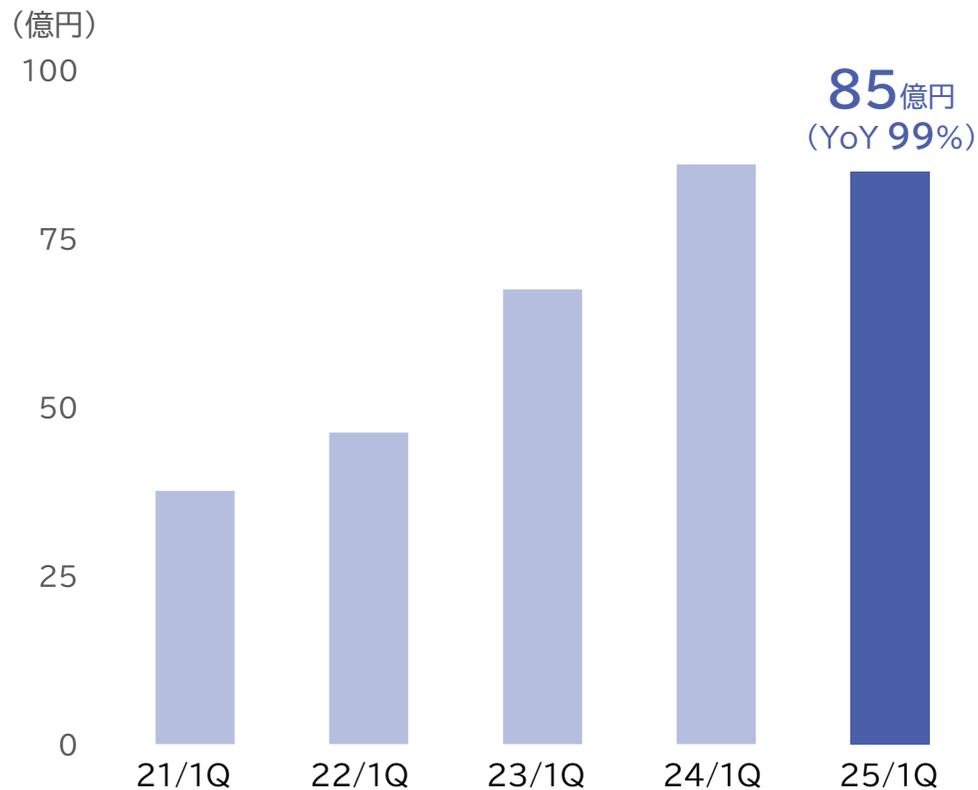
期中平均レート ※()内は前年同期差

HKD : 18.80円(3.9%円高)    THB : 4.37円(0.2%円安)    MYR : 33.57円(0.5%円高)

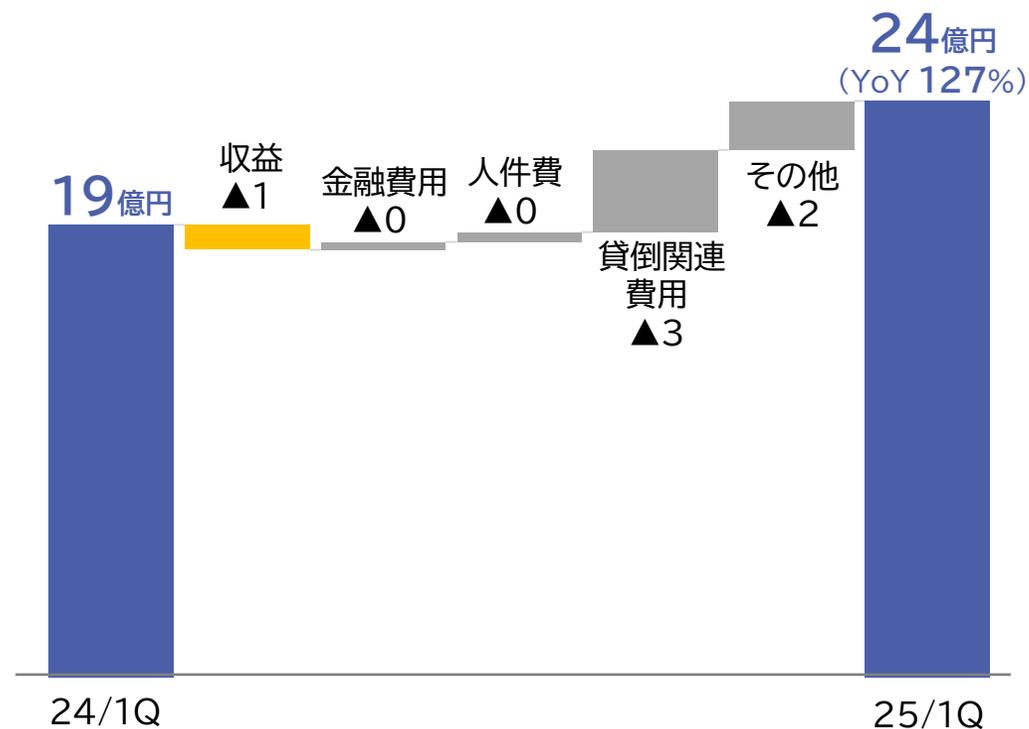
# [国際] 中華圏の業績ハイライト

- 審査・途上与信強化により収益は横ばいも、貸倒関連費用や販促費等の費用抑制により増益

## 営業収益



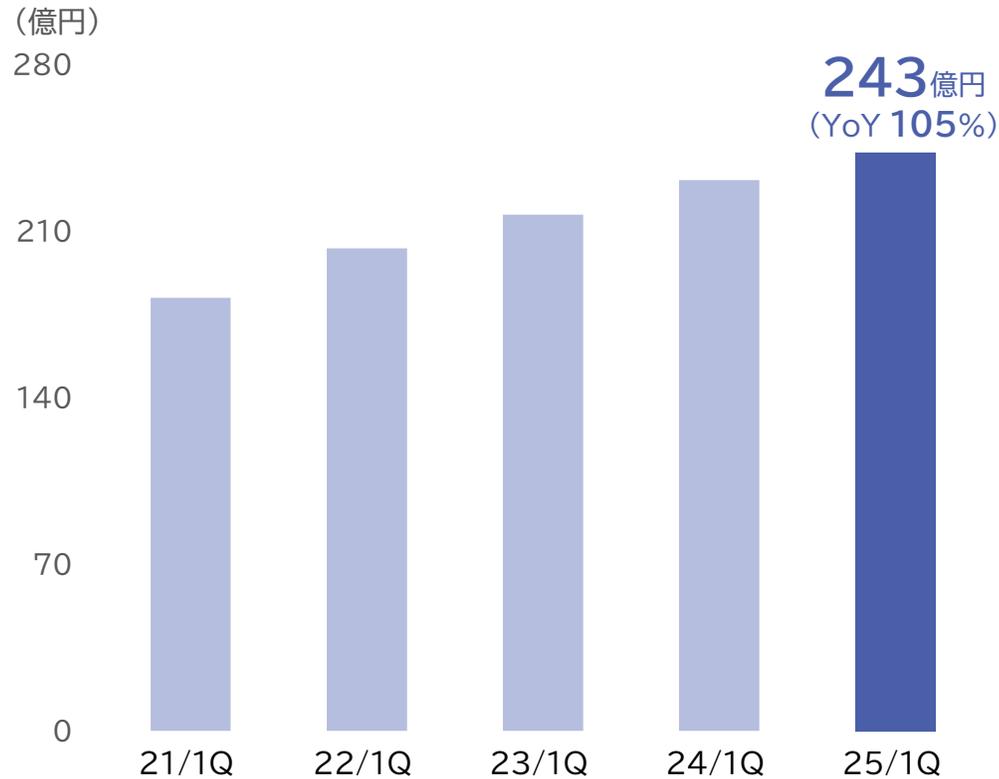
## 営業利益前期差内訳



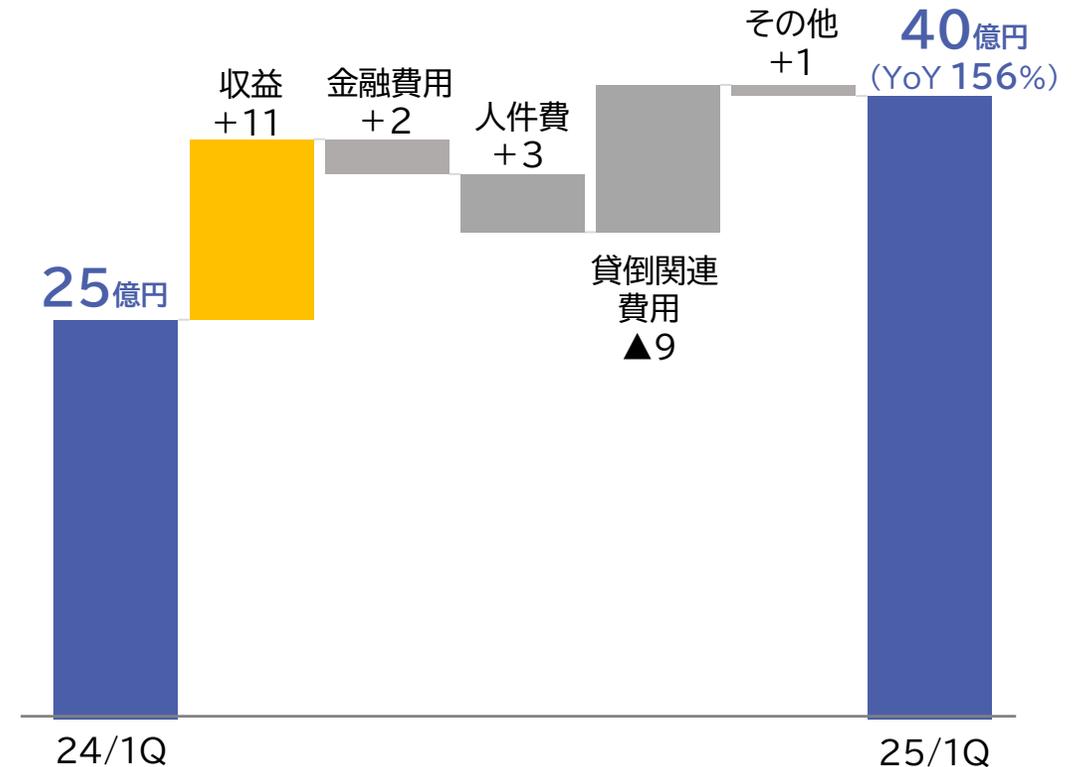
# [国際] メコン圏の業績ハイライト

- タナシンサップ(タイ)は減収も、カンボジアのクレジットカード事業拡大等によりメコン圏では増収
- マクロ環境を鑑みた与信厳格化により債権残高が減少したことを主因に、貸倒関連費用が改善し増益

## 営業収益



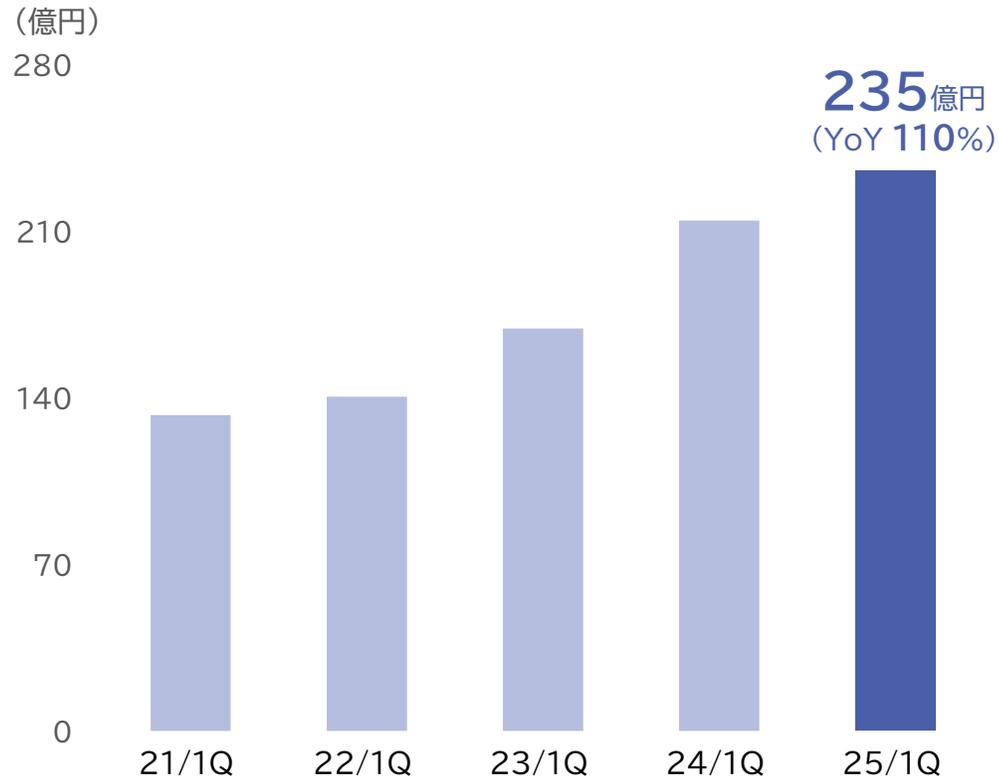
## 営業利益前期差内訳



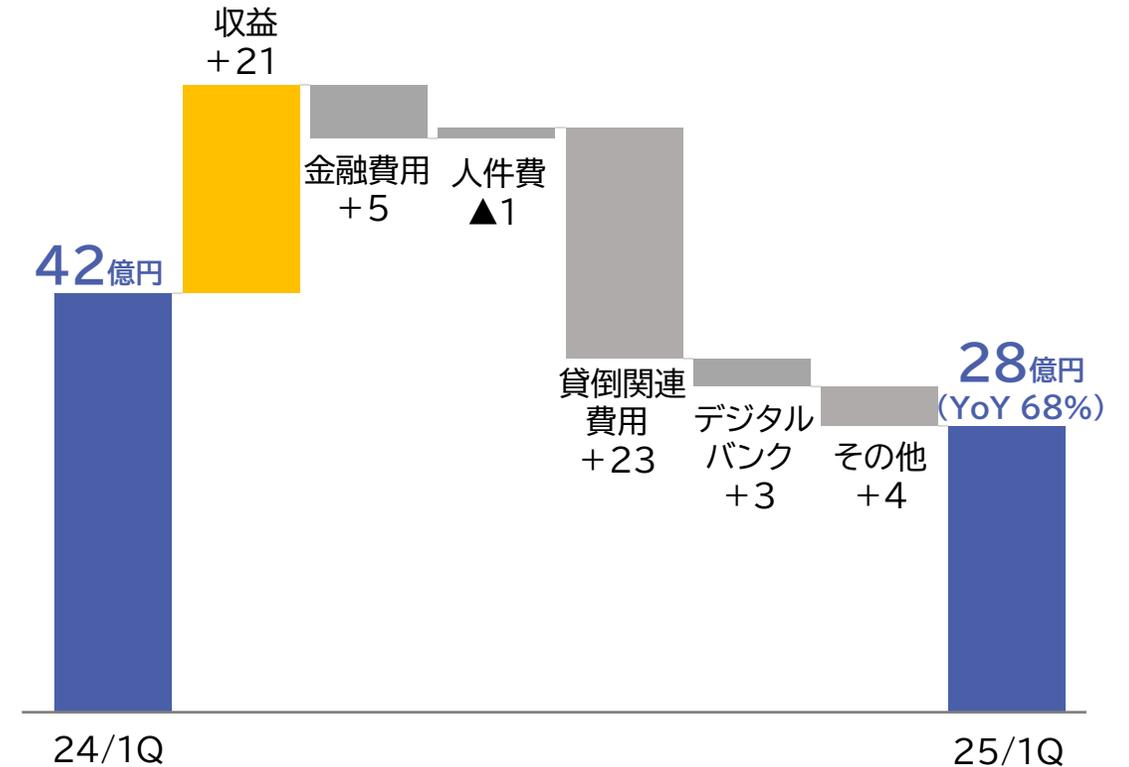
# [国際] マレー圏の業績ハイライト

- 個品割賦に加え、個人向けローンの取扱高・残高が増加し、収益は2桁成長を継続
- 債権残高拡大に伴い貸倒関連費用やデジタルバンク開業に伴う費用増により、営業利益は減益

## 営業収益



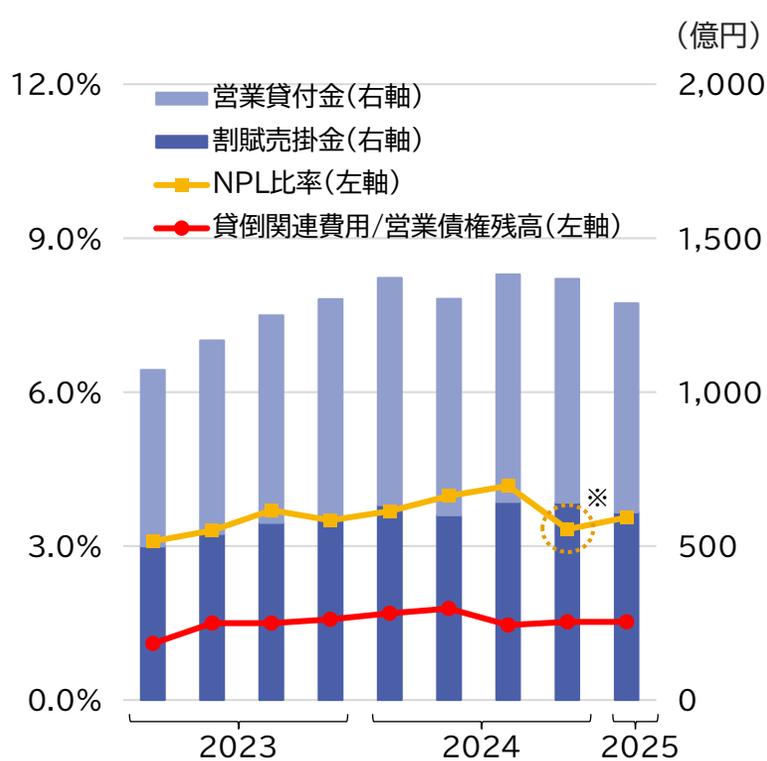
## 営業利益前期差内訳



# [国際] 上場子会社の債権残高およびNPL推移

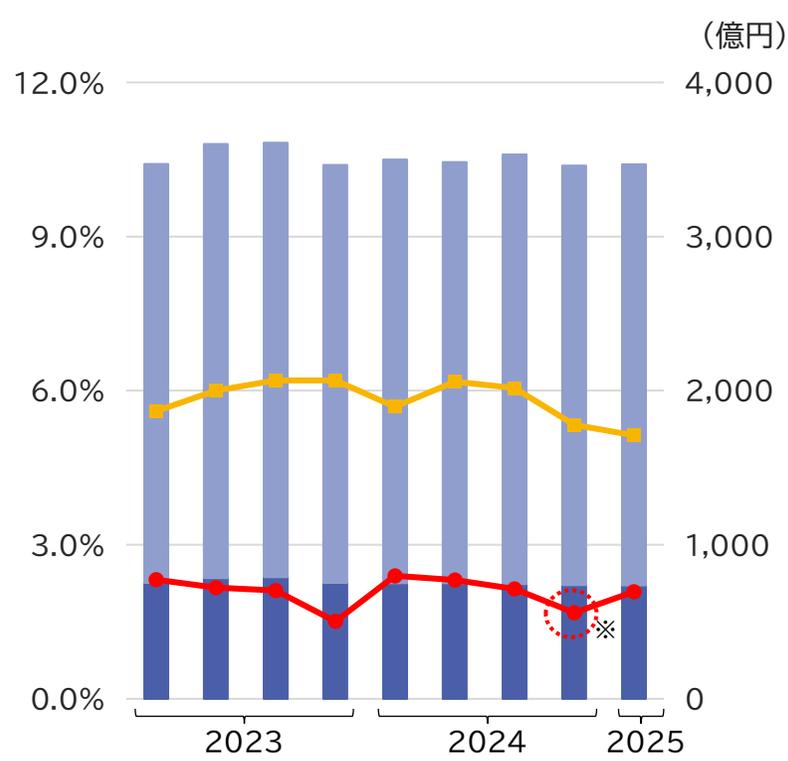
- 香港:市場全体の破産申請件数は高止まりも、与信の引締め等により貸倒関連費用率は安定して推移
- タイ:延滞債権の償却によりNPL比率は低下も、貸倒関連費用率は上昇
- マレーシア:債権残高の積み上げが好調に推移 NPL比率および貸倒関連費用率はゆるやかに上昇

■ ACSA(香港)



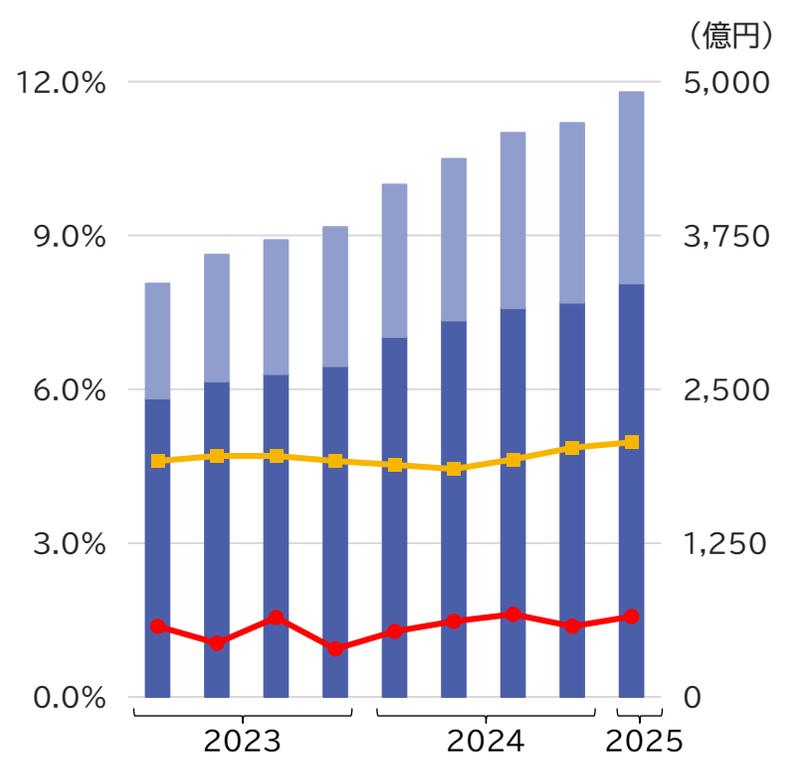
※リストラクチャリング契約債権のNPL認識基準の見直し影響

■ AEONTS(タイ)



※24年2Qに発生した洪水被害に対する引当金の取崩し影響

■ ACSM(マレーシア)



期末日レート ※()内は前四半期差

HKD : 18.35円(4.6%円高)

THB : 4.41円(0.7%円安)

MYR : 34.07円(1.7%円安)

# ガバナンスの強化

# 安心・安全な利用環境構築に向けた取り組み

- 足元の不正利用被害の発生件数は減少傾向 モニタリング継続強化により抑止率は高位維持
- AI活用によるフィッシングサイトのリアルタイム検知・ブロック機能等のセキュリティ対策を強化

## セキュリティ体制の強化



未然防止

AIによるフィッシング詐欺サイトのリアルタイム検知  
3Dセキュアの推進(SMS配信・絵文字認証導入等)



不正検知

AIを活用した不正検知システムの継続高度化  
24時間・365日のモニタリング



態勢強化

相談ダイヤル設置等のお客さまサポート体制強化  
分析、防止・検知策の対策専門部門の設置



外部連携

業界団体や他社との連携強化による対応早期化

迅速に対応できる仕組みの構築

## フィッシング詐欺対策の外部連携強化



警告画面(レッドスクリーン)表示例

25年7月23日  
グーグル・クラウド・ジャパンと  
パートナーシッププログラム締結

AI・機械学習を活用した  
フィッシング対策を強化

※ Google Cloudは Google LLC の商標です。

# イオン銀行の業務改善命令への対応進捗

- 改善計画は遅滞なく進捗
- 対応完了の項目においてもシステム化等の運用高度化を継続して図り、態勢強化に取り組む

## 業務改善命令の内容

マネロン・テロ資金供与対策を重視する健全なリスクカルチャーを醸成し、実効性のあるマネロン・テロ資金供与リスク管理態勢を構築するとともに、疑わしい取引の届出に関する適切な業務運営の構築

## 対応事項

## 1Qにおける主な進捗

- 1 マネロン・テロ資金供与対策に関するガバナンス強化
- 2 疑わしい取引の届出業務を適時・適切に行うための態勢構築
- 3 取引モニタリングシステムで検知したにもかかわらず、疑わしい取引に該当するか否かの判断を行わず放置した取引への対応
- 4 ガイドライン未了事項の早期解消
- 5 新システムの早期リリース及び業務運営の開始

### ガバナンス強化

- ・ビジネスモデルに照らして認識すべきリスクや課題等を再認識するため、外部専門家の知見も活用し、リスク評価書の見直しを実施(3月)
- ・現場の把握、意識改革及びマネロン・テロ資金供与リスク管理に関する相互理解を深めることを目的とした、経営陣と従業員との座談会及び役員巡回面談を全店で実施(2~5月)

### 態勢構築

- ・KRIの実績・推移を月次で報告し、検証する運用を継続(1月~)
- ・マネロン・テロ資金供与リスク管理を行える専門的な人材を確保するため、人事制度の見直しを実施(4月)
- ・疑わしい取引届出等の態勢強化を目的としたマネロン等対策担当部署の組織体制の見直し及び業務量に応じた追加の人員補充を実施(5月)

### 教育/研修

- ・ビジネスモデルに照らした役割の理解・課題の把握を目的とした研修をマネロン等対策担当及びリスク管理担当部署に実施(4月)
- ・全従業員に対してビジネスモデルに照らした役割の理解・課題の把握を目的とした研修を実施(5月)

業務改善計画の進捗状況の詳細は  
イオン銀行ウェブサイトに掲載しております  
<https://www.aeonbank.co.jp/company/release/2025/>



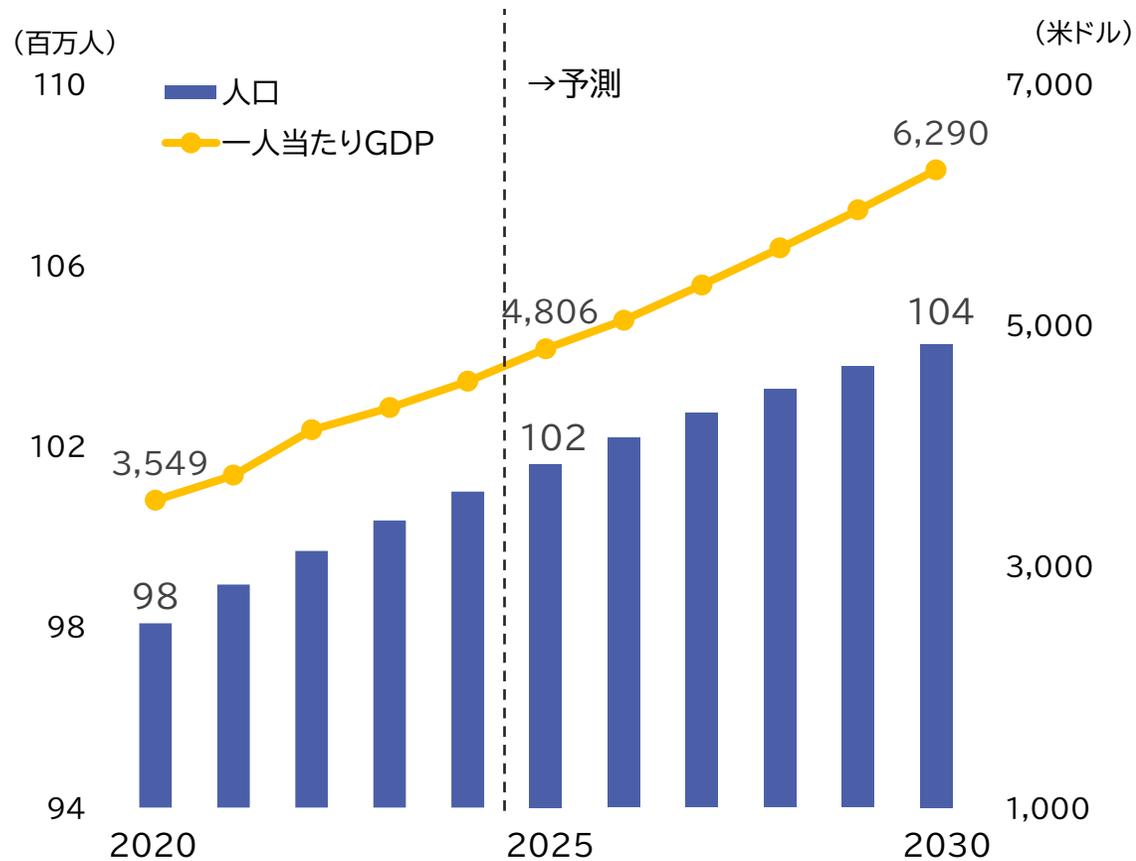
# 重点实施事项

# ベトナム事業の方向性

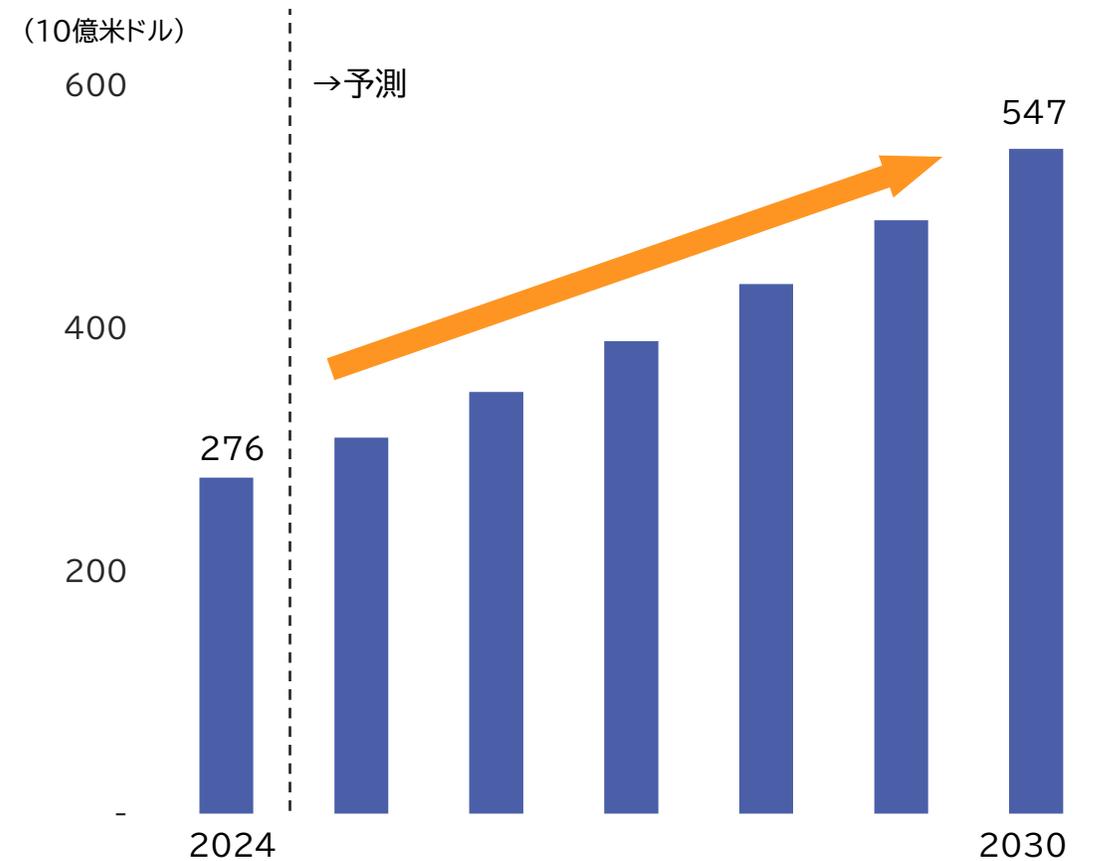
# [国際/ベトナム] 市場環境

- 人口1億人を超え、若年構成の高い活力ある市場 GDP成長率は6~7%/年を継続見通し
- 2030年には、小売市場は約2倍(80兆円規模)に拡大する予測

## 人口および一人当たりGDP

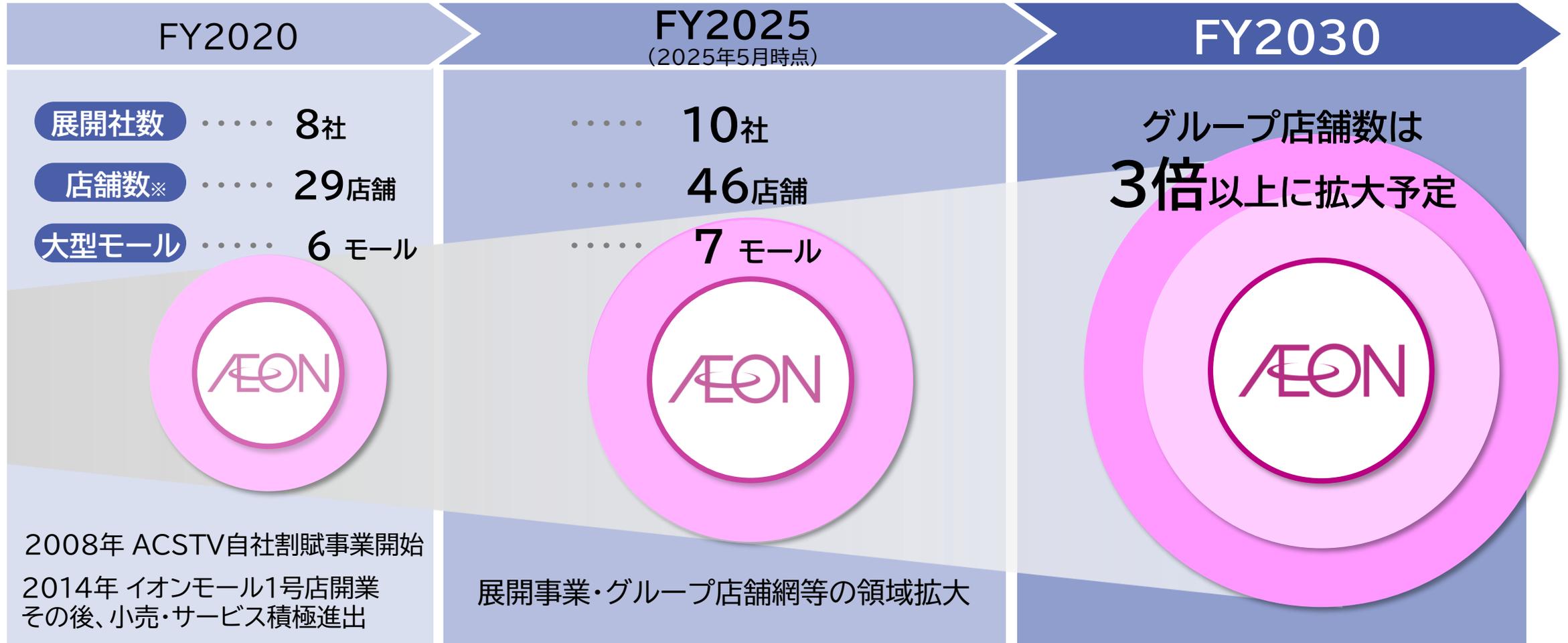


## 小売市場



# [国際/ベトナム] イオングループの展開加速

- イオングループはベトナムを海外戦略の最重点国と位置づけ
- 成長著しい市場において、イオングループの事業・店舗網、顧客基盤の拡大は加速



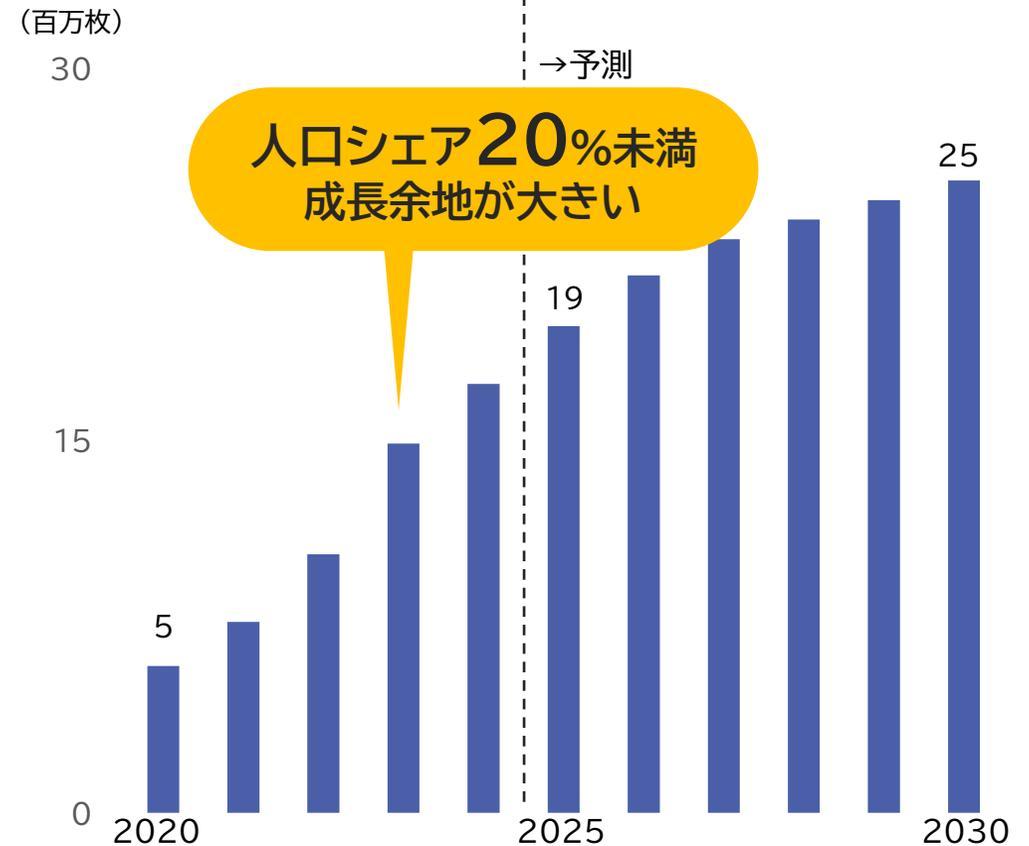
# [国際/ベトナム] 市場の金融ニーズ拡大

- 所得や消費の拡大に伴い、金融市場は飛躍的な成長を予測
- QR等のキャッシュレスが進む一方で、クレジット(後払い)市場は発展途上

## コンシューマーファイナンス市場



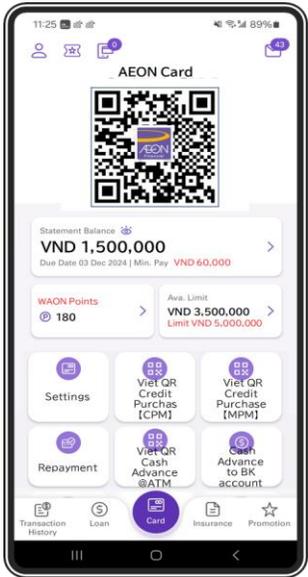
## クレジットカード市場



# [国際/ベトナム] スマホ起点の決済ビジネス開始

- デジタル決済サービスを開始 誰もが利便性の高い決済機能を利用できる環境へ
- 10年後に顧客基盤を2,000万人(人口シェア約20%)、決済会員は業界トップシェアを目指す

## 決済ビジネス開始



デジタル発行による、申込～利用の即時化

グループ来店客・ポイント会員へのクロスセル

ポイント会員データを活用した与信向上

市場シェアNo.1

決済会員 **300**万人  
ID数 **2,000**万人超

300万人

2025年

決済会員 **60**万人

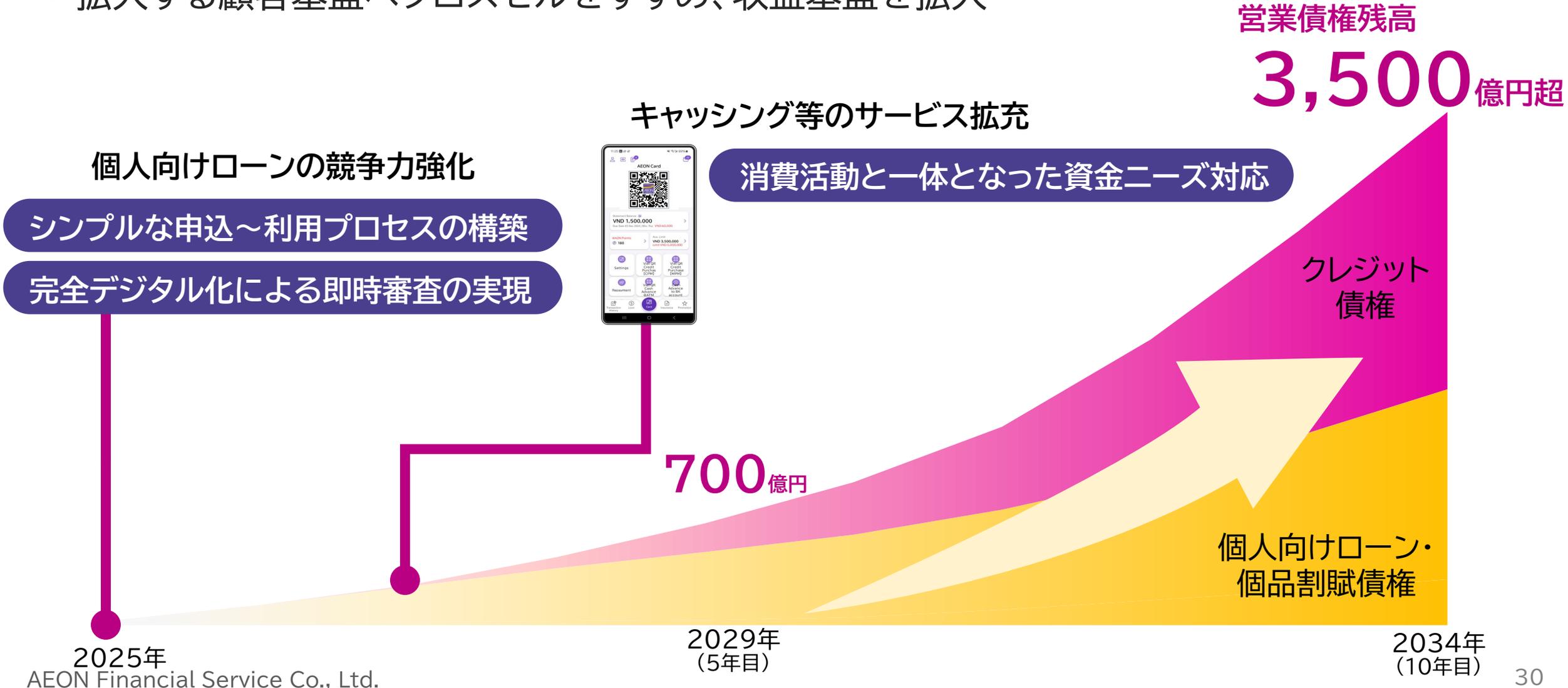
ID数 **1,000**万人

2029年  
(5年目)

2034年  
(10年目)

# [国際/ベトナム] レンディングビジネスの拡大

- デジタル化・AIノウハウを積極活用し即時審査、返済方法等の柔軟性を追求
- 拡大する顧客基盤へクロスセルをすすめ、収益基盤を拡大



# 国内 / 収益力の強化

# ストックビジネス強化に向けた体制整備

- 資産収益性の向上に向け、推進体制を刷新
- AIを活用した与信ノウハウを有するAND Global社と資本提携 国内外の与信競争力の強化を図る

## 25年度KPI

高利回り債権残高  
KPI: +550億円

## 第1四半期実績

キャッシング  
+115億円(YoY103%)

ショッピングリボ  
+95億円(YoY113%)

分割払い  
▲0億円(YoY105%)

銀行無担保ローン  
+4億円(YoY97%)

## オペレーション兼ファイナンス事業担当(新設)



与信、回収部門とストック企画部門を統括してコントロールできる体制に変更

## 外部リソース活用

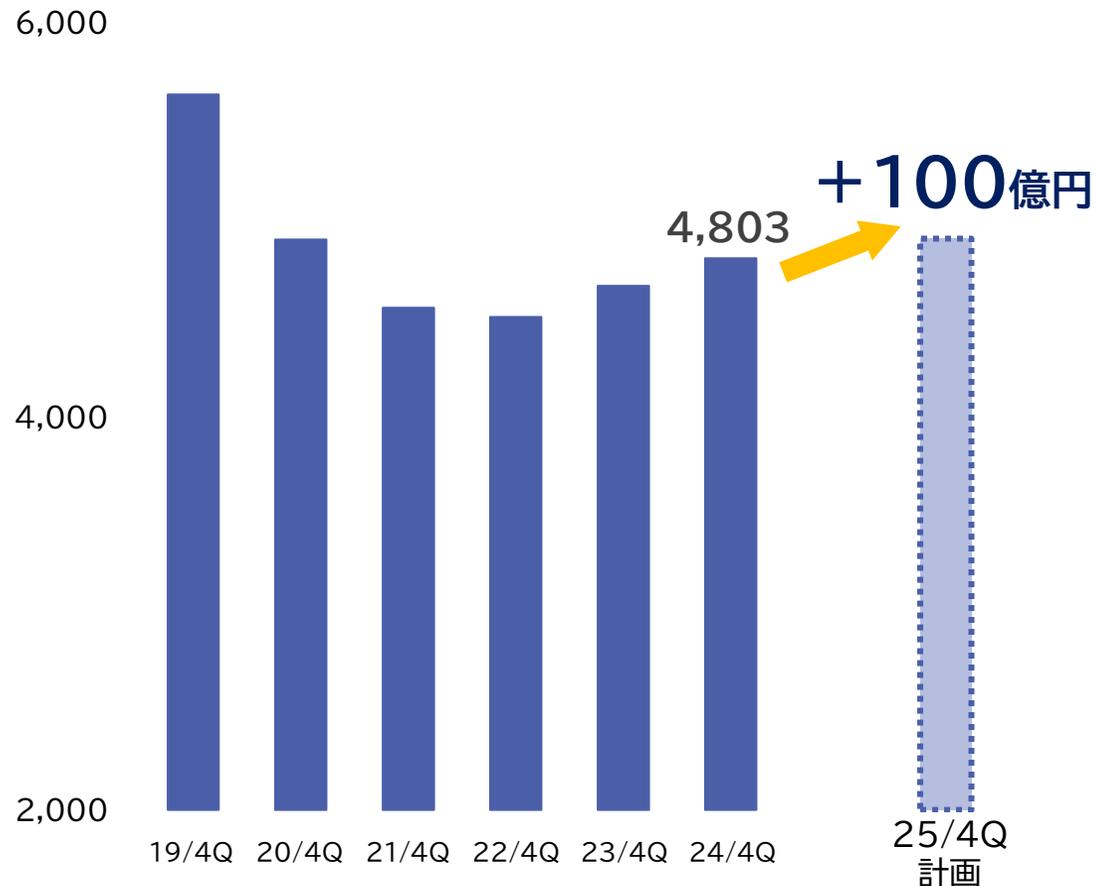


モンゴルでデジタルレンディング  
を自社展開するAIフィンテック  
企業と資本提携

# カードキャッシング・無担保ローン残高

- 債権残高はコロナ禍で1,000億円減少 23年度より残高は反転も増加ペースは緩やか
- 多様化する資金ニーズに合わせ、少額・即時かつ柔軟性の高いレンディング商品も開発していく

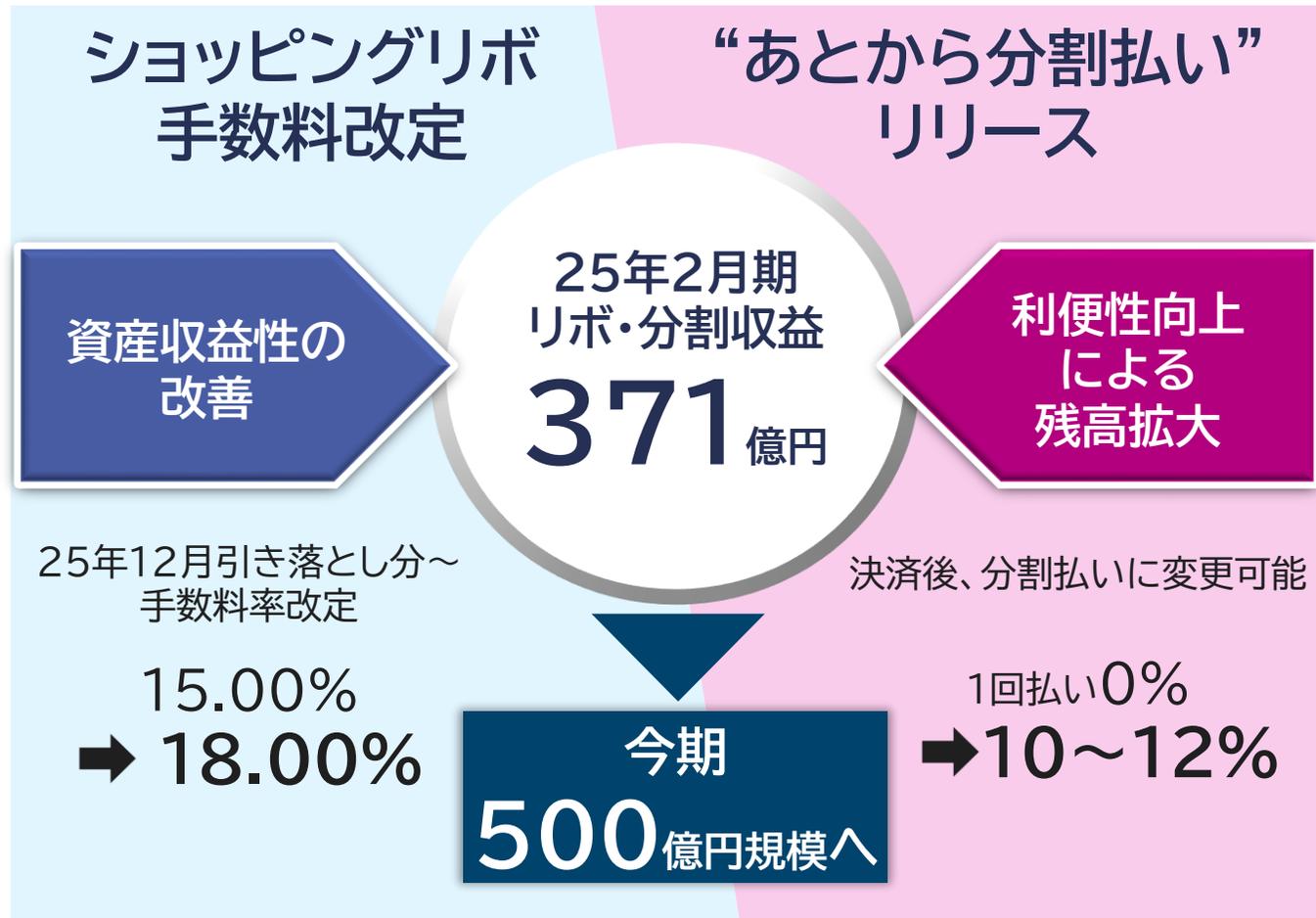
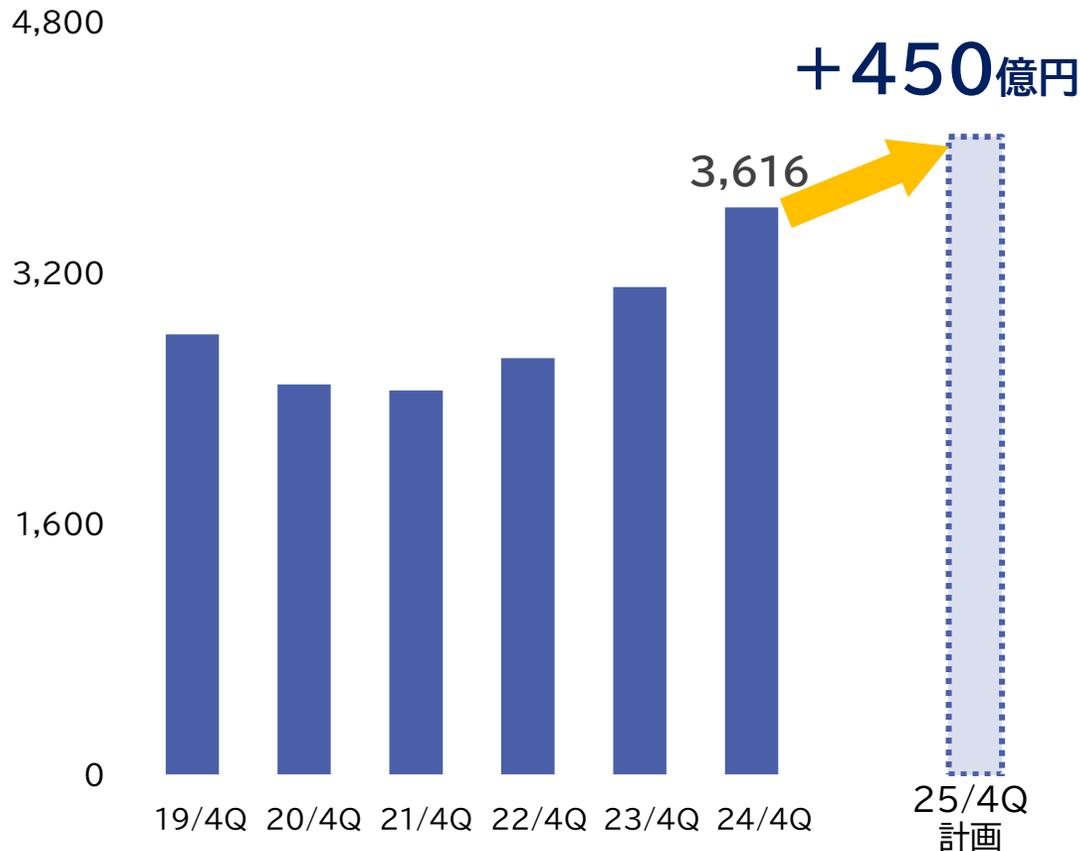
カードキャッシング・無担保ローン残高



# ショッピングリボ・分割残高

- ショッピングリボ債権は3年間で1,000億円増加 25年度においても10%超の増加を計画
- リボ手数料の改定(12月引き落とし分～)、“あとから分割払い”開始(9月以降予定)による更なる強化

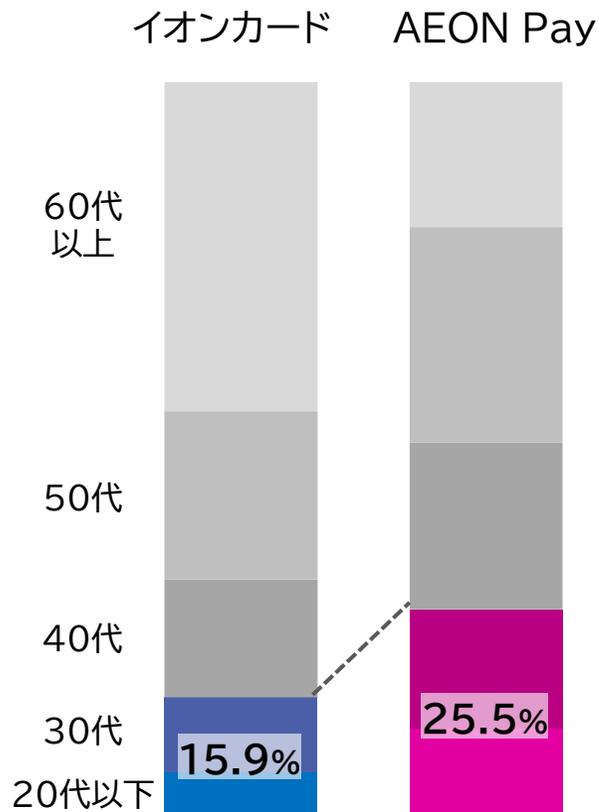
ショッピングリボ・分割残高(流動化前)



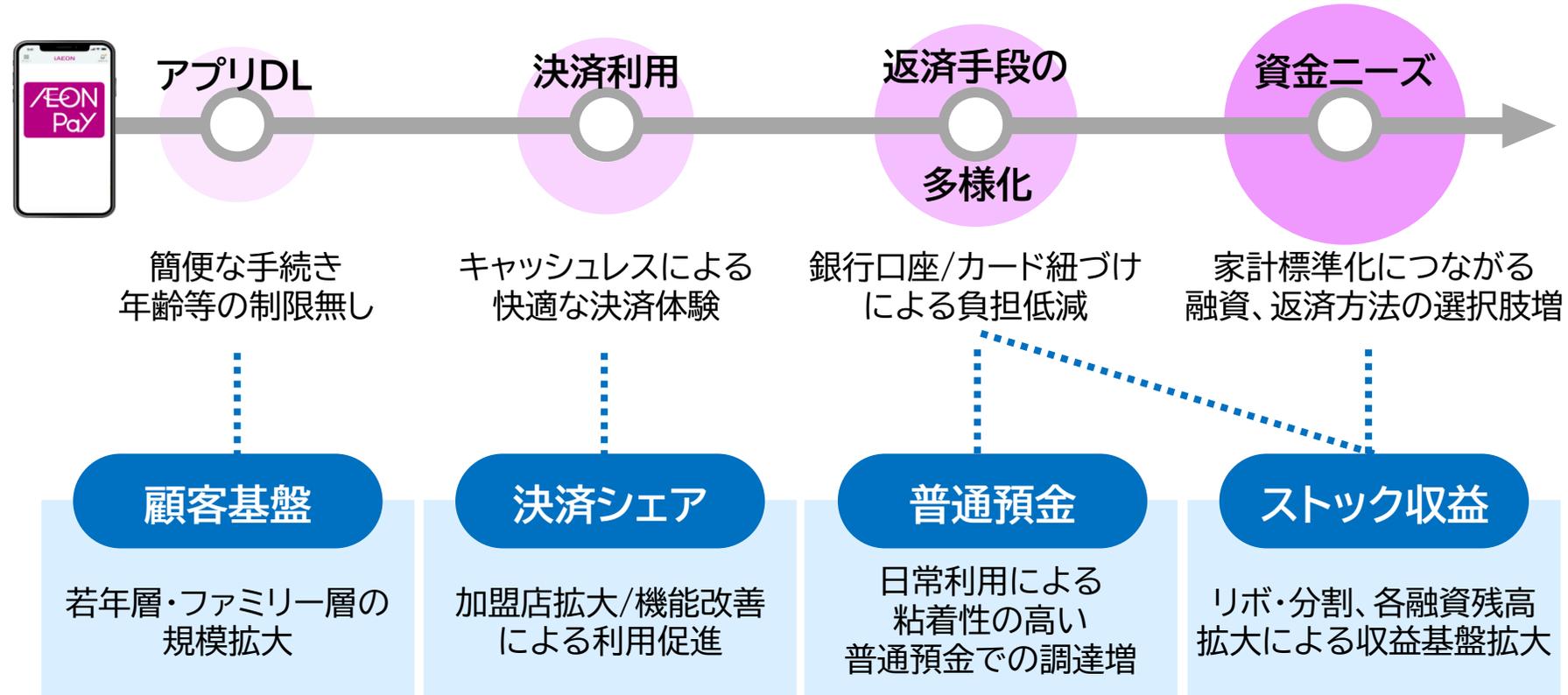
# デジタルウォレット(スマホ)起点の顧客体験の創造

- AEON Payは将来的に金融ニーズの高まる、30代以下の会員構成比が高い
- スマホを起点に、決済から各種ローンや保険等の金融商品・サービスへの顧客体験を構築する

## 年代別構成比 (25年2月末時点)



## スマホを起点とした顧客体験と収益基盤の強化



# 顧客基盤の拡充 <AEON PayとWAONの融合>

- コード(AEON Pay)・タッチ(WAON)の2種の決済手段を融合した“新AEON Pay”が始動
- 電子マネーからコード決済への移行を通じた基盤拡充と、加盟店網の充実による日常利用の浸透を図る

コード決済



25年6月26日~

ワンタッチで残高移行が可能に



AEON Pay会員  
875万人



モバイル  
WAON

WAON会員  
3,600万人

タッチ決済



▶ 約430万箇所での利用可能



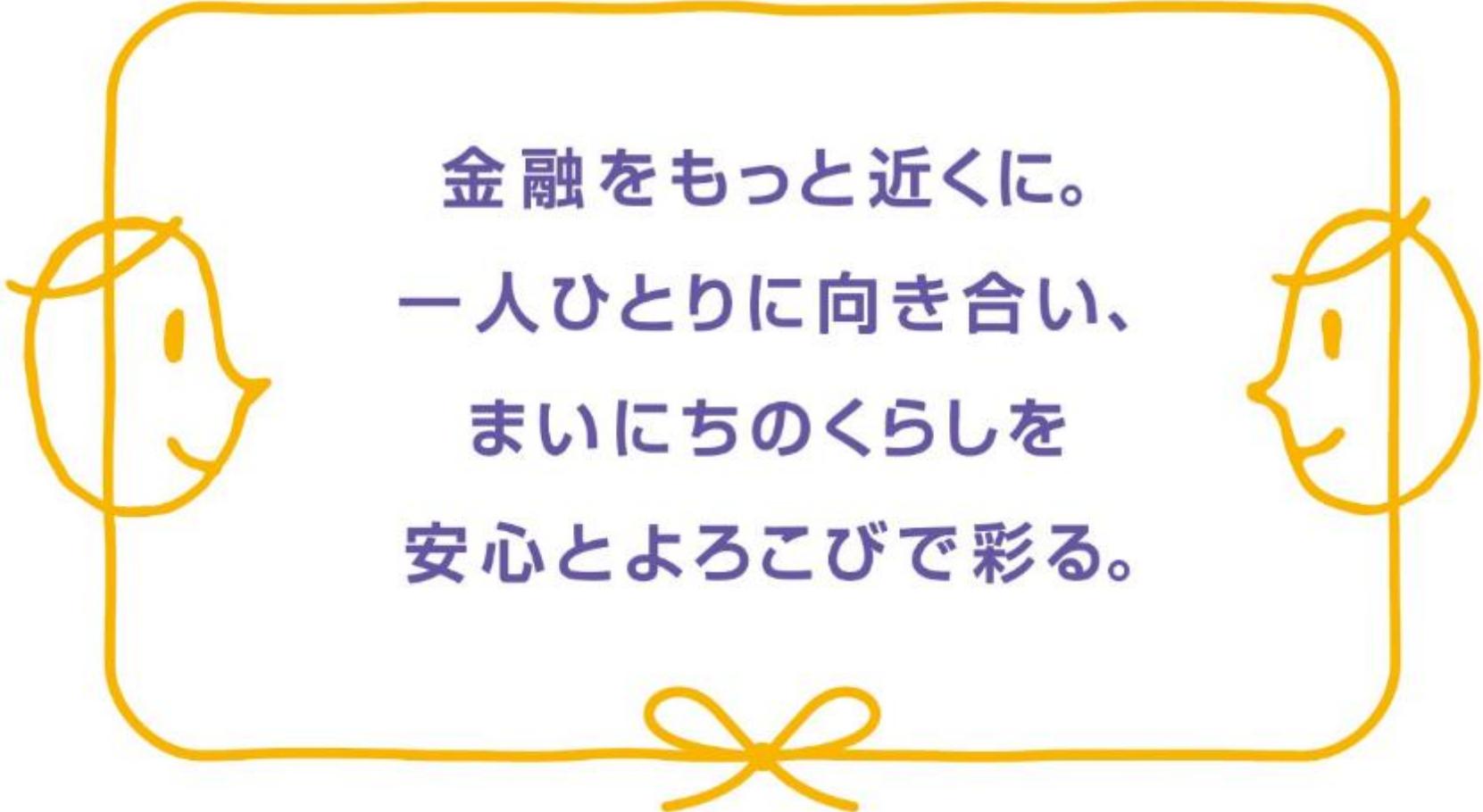
# 業績予想及び配当予想

# 2026年2月期 業績予想及び配当予想

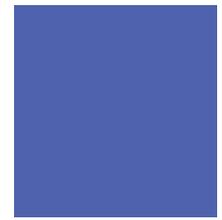
	連結	YoY	国内		国際	
				YoY		YoY
営業収益	5,700 億円	107 %	3,300 億円	105 %	2,400 億円	108 %
営業利益	570 億円	93 %	190 億円	85 %	390 億円	101 %
経常利益	570 億円	91 %	1株あたり配当金		配当性向	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	210 億円	※134 %	年間: 53 円	中間: 25 円 期末: 28 円	54.5 %	

※2025年2月期実績の修正による影響

## Our Purpose



金融をもっと近くに。  
一人ひとりに向き合い、  
まいにちのくらしを  
安心とよろこびで彩る。



# Appendix

# 2025年2月期決算 業績修正について(貸借対照表)

- PTF保有資産の再評価及び事業価値の再算定を、持分取得時に遡り実施

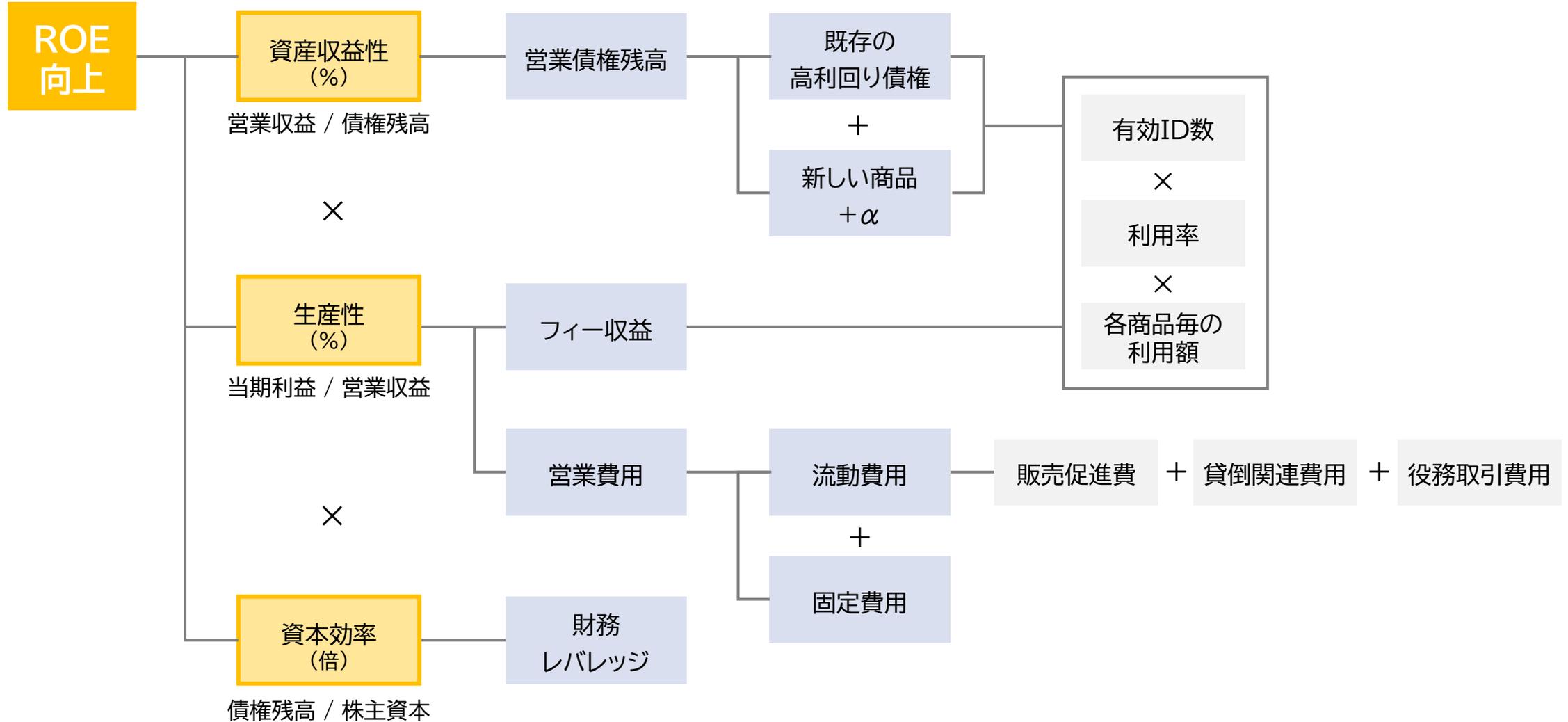
借方	修正連結	4/10開示差
現金預け金	8,147	-
営業貸付金	9,799	▲ 90
銀行業における貸出金	26,704	-
割賦売掛金	17,473	-
貸倒引当金	▲ 1,244	① + 72
その他	13,357	▲ 1
流動資産 計	74,257	▲ 18
のれん	402	③ ▲ 19
その他	2,924	-
固定資産・繰延資産 計	3,342	▲ 19
資産合計	77,564	▲ 38

資産科目の増減要因	
※特別損失(のれん減損)と固定資産(のれん)の差異要因含む	
① PTFの保有債権の再評価を実施し、貸倒引当金の追加繰入を実施 +18億円	差引 72億円
② 持分取得後のPPA※における再評価により、営業貸付金と貸倒引当金を相殺 ▲90億円	
貸倒引当金の追加繰入分を、のれんに追加計上 +18億円	③ 差引 ▲19億円
④ 事業価値の再評価により、のれんを38億円減損	

※PPA:Purchase Price Allocation(取得原価配分)

貸方	修正連結	4/10開示差
負債 計	71,707	-
利益剰余金	2,902	④ ▲ 38
その他	2,955	-
純資産 計	5,857	▲ 38
負債・純資産合計	77,564	▲ 38

# [再掲] ROE向上に向けた考え方



# [補足] 国内セグメントにおける取引の一部変更影響

- WAONバリュイシューア事業取得と内部取引の一部見直しにより、イオン銀行(リテール)ーイオンフィナンシャル(ソリューション)間の収益・費用の計上が一部変更 セグメント間での計上変更であり、国内営業利益には影響なし

		リテール		ソリューション		
			前年同期比		前年同期比	
収益	包括信用購入あっせん	15,728	+9,393	加盟店手数料 配賦割合の変更	10,695	▲7,916
	個別信用購入あっせん	57	+2		0	+0
	融資収益	16,435	+849		148	▲206
	償却債権取立益	31	+31		88	+0
	金融収益	14,438	+1,302		770	+676
	保険収益	3,898	+683		-	-
	役務取引等収益	7,590	▲847	WAONバリュイシューア事業 (ABK保有分)	33,238	+7,958
	その他	1,648	▲151		2,056	+155
費用	金融費用	6,351	+5,234	計上基準の見直し(内部取引) ※連結調整により連結・国内影響なし	593	▲148
	保険費用	3,514	+745		-	-
	役務取引等費用	26,123	+6,131		54	▲13
	販管費	24,477	+5,135	国際ブランド手数料計上の変更 旧:AFS(ソリューション)、新:ABK(リテール)	40,802	▲1,795
	その他	70	+28		815	+166

# バランスシートの状況

(単位:億円)	FY 2025			FY 2025	
	1Q実績	期首増減		1Q実績	期首増減
現金預け金	6,158	▲ 1,989	預金	52,351	+289
営業貸付金	10,124	+325	買掛金	4,706	+1,528
銀行業における 貸出金	27,242	+538	有利子負債 (預金除く)	12,809	▲ 282
割賦売掛金	18,430	+956	その他	3,274	▲ 100
貸倒引当金	▲ 1,243	+1	負債合計	73,142	+1,434
その他	18,145	+1,461	純資産合計	5,716	▲ 140
資産合計	78,858	+1,293	負債及び 純資産合計	78,858	+1,293

# セグメント別業績

(単位:億円)	国内計 ※		国際計 ※		連結計 ※			
	リテール	ソリューション	中華圏	メコン圏	マレー圏			
営業収益	811	598	469	563	84	243	235	1,365
前期比	108%	123%	101%	106%	99%	105%	110%	107%
営業利益	34	▲7	47	94	24	40	28	129
前期比	55%	-%	208%	107%	127%	156%	68%	85%
営業利益率	4.3%	▲1.2%	10.1%	16.7%	29.3%	16.6%	12.3%	9.5%
前期差	▲4.1pt	▲12.1pt	+5.2pt	+0.2pt	+6.6pt	+5.4pt	▲7.4pt	▲2.4pt

(参考) 債権流動化による収益影響 12 億円 (前期差+8億円) ※2

※ 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引の相殺消去後であり、連結計には、本社・機能会社および連結消去額を含む

# エリア別業容

	(単位:億円)	取扱高	営業債権残高 (流動化前)		
			前年同期比		期首増減
国内	クレジットカード	20,575	105%	19,408	+804
	ショッピング (うちリボ・分割)	19,541	106%	15,015	+689
	キャッシング	-	-	3,710	+95
	キャッシング	1,034	101%	4,393	+114
	住宅ローン	922	53%	38,814	+167
	その他	-	-	12,781	▲100
	国内計	-	-	71,004	+871
国際	クレジットカード	1,624	94%	2,956	▲54
	ショッピング	1,153	92%	1,524	▲36
	キャッシング	471	102%	1,431	▲18
	個品割賦	427	100%	3,585	+129
	パーソナルローン	505	89%	3,815	+43
	その他	-	-	6	+1
	国際計	-	-	10,363	+64

## 海外上場3社 業績（現地通貨）

		FY 2024	FY 2025	
		1Q実績	1Q実績	YoY
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	Revenue	426,547	442,180	104%
	Profit before tax	99,351	131,965	133%
HK\$' 000	Profit for the period	83,255	109,325	131%
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	Revenue	5,507,210	5,392,925	98%
	Profit before tax	671,513	1,012,030	151%
BAHT' 000	Profit for the period	539,207	808,035	150%
AEON CREDIT SERVICE (M) Berhad	Revenue	522,259	599,922	115%
	Profit before tax	144,825	109,031	75%
RM' 000	Profit for the period	106,413	77,547	73%

# 海外上場3社 業績 (円換算)

		FY 2024	FY 2025		為替レート
		1Q実績	1Q実績	YoY	
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	Revenue	83億円	83億円	99%	<u>為替 (円 / HKD)</u> ・ FY2024Q1 : 19.67円 ・ FY2025Q1 : 18.80円
	Profit before tax	19億円	24億円	127%	
	Profit for the period	16億円	20億円	126%	
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	Revenue	231億円	235億円	102%	<u>為替 (円 / THB)</u> ・ FY2024Q1 : 4.21円 ・ FY2025Q1 : 4.37円
	Profit before tax	28億円	44億円	156%	
	Profit for the period	22億円	35億円	156%	
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad	Revenue	169億円	201億円	119%	<u>為替 (円 / MYR)</u> ・ FY2024Q1 : 32.48円 ・ FY2025Q1 : 33.57円
	Profit before tax	47億円	36億円	78%	
	Profit for the period	34億円	26億円	75%	

# 国際事業の各種取扱高、債権残高の状況

(単位:億円)		中華圏(香港)		メコン圏(タイ)		マレー圏		国際事業	
			前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年比 (増減)
クレジット カード	取扱高	632	98%	770	85%	222	128%	1,624	94%
	債権残高	1,001	▲48	1,589	▲91	365	+72	2,956	▲66
個品割賦	取扱高	-	-	73	104%	354	99%	427	100%
	債権残高	-	-	426	+93	3,159	+326	3,585	+420
個人ローン	取扱高	52	59%	254	80%	198	120%	505	89%
	債権残高	286	▲34	1,975	+172	1,553	+292	3,815	+431
合計	取扱高	684	93%	1,097	85%	775	111%	2,557	94%
	債権残高	1,288	▲82	3,990	+175	5,077	+692	10,356	+785

# セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の状況

## 【貸倒引当金】

(単位:億円)	国内計			国際計	国際計			連結計
		リテール	ソリューション		中華圏	メコン圏	マレー圏	
期首貸倒引当金残高	572	17	559	663	50	329	283	1,244
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	65	▲1	65	181	19	78	82	246
貸倒償却額 (移管債権等含む)	82	0	82	164	23	70	69	247
期末貸倒引当金残高	555	16	543	680	47	337	295	1,243

※参考 国内子会社の期末残高

<リテール>	イオン銀行:	16億円
<ソリューション>	イオンフィナンシャルサービス:	532億円
	イオン住宅ローンサービス:	9億円

## 【利息返還損失引当金】

(単位:億円)	FY2024 1Q実績	FY2025 1Q実績
期首残高	25	9
繰入額	-	-
利息返還額	4	1
期末残高	20	7

# 2025年度 KPI

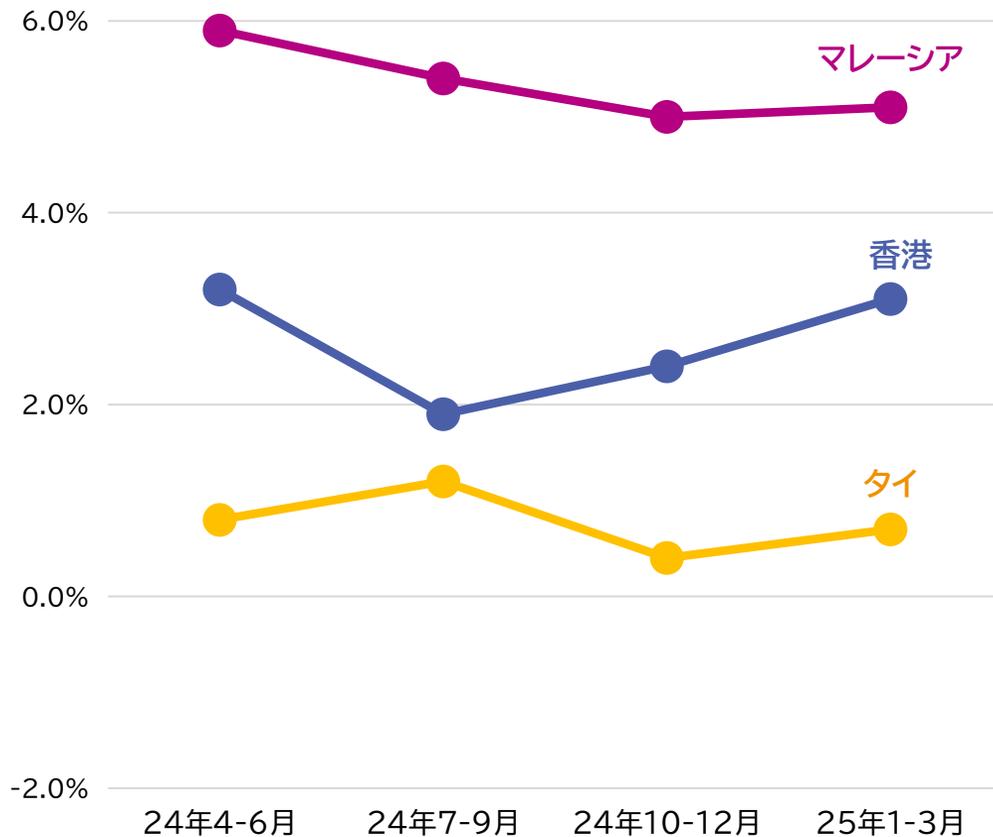
- ・ イオン生活圏の拡大による資産収益性・生産性向上を通じ、持続的なROEの向上を目指す

方針	国内KPI	
	指標	25年目標
「イオン生活圏」拡大による規模の経済発揮	AEON Pay利用可能場所	+100万箇所
残高の拡大・利回り改善	高利回り債権残高	+550億円
各商品の取扱高拡大	自社決済取扱高	10兆円(+0.5兆円) カード:8兆円、電子マネー:2兆円
	銀行預金残高	+5,000億円

# 〔国際〕 各エリア別の環境

- マレーシアでは、内需が好調に推移し、最低賃金引き上げ後も失業率は低下
- 一方、香港は個人破産申請件数の高止まりが継続 タイは成長率の年間見通しを引き下げ

## 実質GDP成長率推移



### マレー圏(マレーシア)

- 3期連続で減速も、内需は6%以上の成長を継続
- 2月の最低賃金引き上げ後も雇用環境は好調に推移し、4月の失業率は10年ぶりとなる3.0%に低下

### 中華圏(香港)

- 成長率は改善も、米中貿易摩擦による前倒し輸出も影響
- 物価の安い中国での消費(北上消費)の増加は継続
- 香港全体での個人破産申請件数は依然として増加も、法定最低賃金は5月より約5%上昇

### メコン圏(タイ)

- 成長率は低位で推移し、年間成長率も輸出産業への懸念と観光客の減少を鑑みて下方修正
- 16~59歳を対象とした政府の1万バーツ配布は延期となり、産業振興に予算配分予定

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確実要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス